

沖電気争議解決25周年記念誌

熱きおもい いつまでも



2012年4月22日

沖電気争議解決25周年記念誌

目次

	ページ
☆挨拶	
元沖電気争議支援中央共闘会議 事務局長 井川 昌之	1
元沖電気争議弁護団 高橋 融	2
沖電気の職場を明るくする会 代表 真喜志 晃	3
元沖電気争議団 代表 中山 森夫	4
☆争議解決25周年を迎えて	
沖電気の仲間からのメッセージ	5
☆25周年記念の集いに寄せられた	
ご支援頂いた皆さんからのメッセージ	25
☆亡くなった争議団の仲間たち4人	34
☆OBニュースから転載「墓碑銘に代えて」	
倉持 米一 元沖電気争議支援中央共闘会議 議長	35
小島 宏 元沖電気の仲間を支援する会 事務局長	36
☆指名解雇から勝利解決までの闘争日誌	37
☆沖電気の職場を明るくする会の闘いの簡略史	38
☆沖電気争議の歌	
「赤いゼッケン」 「こぶしの防波堤」 「決意は固く」	41

労働組合運動の原点と未来が問われた沖電気争議

元沖電気争議中央支援共闘会議 事務局長 井川 昌之

三井三池争議以来死語となっていた大量の指名解雇を1978年11月、沖電気資本が強行しました。

こうした、非道な指名解雇攻撃と対決して、8年4カ月に及ぶ闘いに勝利した沖電気争議団の皆さんに、心からおめでとくと申し上げます。

そして、その争議が解決して早くも25周年を迎えました。

この間、職場に戻った仲間も、職場に戻らなかった仲間も、それぞれ新たな道を歩んできました。その道は争議中の厳しさや苦労とはまた別の試練や苦悩が会ったと考えます。その試練を争議で学んだ経験と財産で見事に乗り越え、有能で多様な活動家に育って今日を迎えました。

当時、労働運動の右傾化が叫ばれる中、ナショナルセンターやローカルセンターが支援できない情勢のもとで、日本の労働組合運動の原点と未来が問われたのが沖電気争議でした。

闘いは争議団の団結を基礎に心ある労働組合と労働者、そして弁護

団などの幅広い支援と連帯で大きな成果を勝ち取りました。

本当にありがとうございました。支援していただいた皆さんや、元争議団の皆さんとの再会を楽しみにしています。

「写真下、左から井川事務局長、倉持米一議長、増田・安田・大牟礼各副議長。」



文化の夕べは八千人の参加で大成功した。

原点に帰るしかないようだ

沖電気争議弁護団 弁護士 高橋 融

(一)

この25年に世界の富は何層倍になったのだろうか？
この頃、よくそう考える。

この16年間、かつての戦争中に日本へ強制連行された農民や労働者約4万人の受けた被害回復のために、彼らと彼らの遺族から依頼を受けて、私は毎年数回ずつ中国に通って来た。日本ではそんなに大きな変化は見られないが、中国の変化は大きい。かつて10年ぐらい前までは、例えば市内の主たる交通機関は、誰も彼もが自転車だった。今は圧倒的に自動車に変化し、全く日本と変わりがなかったところまで来た。地下鉄もどんどん伸びている。新幹線のような高速列車がどの幹線でも採用されている。もちろん、市民の生活も大きな変化を遂げた。(その結果、昔の日本のように都会の空気は、汚れ果てて臭く、のどを刺激する。)中国は変わった、しかし人々は幸せになったのだろうか。だが、それは彼らの問題だ。

(二)

中国がこれだけ経済発展を遂げる間、日本はもちろん止まっていたわけではないから、不況続きとは言え、多くの富が蓄積されてきたはず。それはどこに行ってしまったのか。市民の生活は豊かになったようには見えないし、私の周りの人々はその利益を全く受けていないようだ。

政権交代が起きたら、少しはましになると思い、中国人たちの事件の解決に役立つと考えていたが、近くにあっても頑張って積極的に戦って協力していたはずの人たちが、政権内部に入ってもほとんど力を発揮できない。これは何なのか？おまけに、ここに来て消費税導入と言う。

(三)

4月7日と8日の両日、福島大学で人権回復を目指す会合があって、現場の人たちや学者、弁護士たちが500人集まって熱気に満ちていた。またそこで聞く話は、驚嘆する話ばかりであった。中でも驚いたのは、

破壊された原発で働いていた人たちは、3週間線量計なしであったと言う。備え付けてあった線量計が津波で流されたのだと聞く。しかし、そんなに重要なものは東電や他の電力会社の他の原発でもたくさんあったらうし、2-3時間もあれば現場に届けられたはずだ。

そこで働く人たちの生命と健康を守れないような企業、現場の労働組合、関係官庁が住民や市民の安全を守れるはずがない。

学生の頃はこんなに生産力が伸びているのだから、当然労働時間は短くなって、やがて2時間も働けば、あとはゆったり過ごせるようになるはずと思っていた。ところが片方に長時間労働で病気になるほど働いている人がいるのに、他方には仕事にありつけず失業する多くの若者がいて、嘆いているのが普通の世の中になってしまった。労働組合と名乗る組織はあるが、こんな事態に対し何の異議申し立てすらできないらしい。どうやら、日本では原点に帰ってやるしかないようだ。

どんなにうまくやろうと思っても、そうは行かない。犠牲は出るかもしれぬが、やり直すしかないのだろう。私たちがやってきたことは、少なくとも大きな方向としては間違っていないかった。迷い、ためらい、おじけづいても、多少の後戻りがあっても、この道しかないようだ。

五〇年やって来て、これがどうやら私の結論らしいと、噛み締めるこの頃である。

公判の後、弁護士会館で原稿団と傍聴者に報告される高橋弁護士。右は亡くなった小島成一弁護士と清水恵一郎弁護士。



要求実現を職場の仲間とともに

沖電気の職場を明るくする会 代表 真喜志 晃

沖争議の解決の前年1986年に「沖電気の職場を明るくする会」は、発足をしました。「憲法で保障された、生活と権利、自由と民主主義を守り、明るく働きやすい職場を創りたい」という目的で争議をたたかったなかまの経験と職場の中で争議を支え共にたたかったなかまの経験は、争議解決後の沖電気の職場の中で、大きな役割を果たし、多くの前進と教訓を創りあげてきました。

復職後のいじめ・嫌がらせ人権裁判での勝利和解、会社に総額1億円のサービス残業代を従業員500人へ支払わせた運動、会社の排除を跳ね除け、先進をきって勝ち取った60歳以上の再雇用延長などを実現させてきました。

繰り返し行われる沖電気のリストラ合理化の攻撃のなか、労働者を励まし、私たちも励まされ、共に生活と権利を守る運動をしてきました。労働者の声に耳を傾けて要求を実現する運動を進めるなかで、賛助会員も含めて会員は発足当時より増加をしています。

工場の門前で受け取りの少なかつた機関紙「あすなる」は、会員の地道な努力の積みかさねで、多くの労働者が受け取るようになり、職場内でも配布ができるほど市民権を得ています。

この10年間で、沖グループは約9000人(35%減)の人員削減をしました、長時間労働とずさんな健

康管理の中で起きた労働者の過労自殺は昨年、労災認定が認められ遺族の「息子の無念を晴らしたい」と労災認定闘争に立ち上がった遺族と共



にたたかい、昨年労災が認定されました。OKIユニオンが取り上げなかった問題でも声を上げ、たたかいとてきました。

正社員を減らし派遣社員への置き換えがすすめられています。忙しいときに採用し短期契約を繰り返した挙句に、簡単に雇い止めにする。派遣社員だけの問題ではありません。沖データに8年5ヶ月派遣として働き雇い止めされた労働者の直接雇用を求める運動は、団体交渉(電機・情報ユニオン)の実現、「労働局が派遣法違反を是正指導」とハードルを乗り越えてきました。派遣労働者の問題でも取り組みを強めて行きたいと思います。

労働者との輪を確かなものにしながら、生活と権利を守り広げる運動に今後も取り組んでいきたいと思います。



沖電気の株主総会では宣伝と、出席し発言を続けている。この発言が契機となり実現した要求も。

25年経って見えてきた沖電気争議の大きさ

元沖電気争議団代表 中山 森夫

争議の解決を機にそれぞれが新たな道を歩き始め、25年経った。どの道も平坦ではなく、一言では言えない長さだが、今記念誌を作り上げて感じているのは、充足感と感謝の気持ちである。

職場に戻った人たちを襲った会社の攻撃は熾烈であった。指名解雇を梃子とした労働者支配を継続させるための必死の攻撃であった。

しかし、復帰者はそれに耐え抜き、反撃に転じ、多くの成果を積み重ねてきた。相次ぐリストラとの闘いでも、職場の労働者との結びつきでも沖電気の職場を明るくする会(略称OAK)は全国の電機の闘いをけん引してきた。

沖電気争議解決の翌年、電機労働者懇談会が結成され、2000年には未組織労働者を対象に電機ユニオン関東と関西が結成された。そして、昨年は全国産業別労組として電機情報ユニオンが結成された。これらの運動を推進する上で沖電気の仲間たちは貴重な役割を果たした。沖電気OBの米田徳治さんが委員長に選ばれたのも偶然ではない。

職場に戻らず、新たな職場や活動の場を求めた人たちも貴重な歩みが続いている。中年にさしかかった年代での「転職」には様々な苦労があったことは当然である。

中でも労働組合運動に道を求めた人たちの奮闘は目覚ましい。

ローカルセンター結成間もなくで、財政基盤も弱い組織でスタートしたところもあった。しかし、25年経った今では、職場や地域にしっかりとした連帯の輪を作り出している。沖電気争議の成果がここにも生きていると思うと嬉しい。

また、それぞれが自分の職場や、地域で平和を守り、生活の向上を求める活動を続けている。今回の記念誌には争議団の息子や娘であった人たちからの手記も届いた。私も子供から「お父さんの仕事は何」って聞かれるのが嫌だった、と言われていただけに読みながら胸が熱くなった。

25年間、一人ひとりがそれぞれの道を歩んできた。しかし、沖電気争議を共に闘った者という繋がりを折に触れ感じた人は多いだろう。首を切られた悔しさ、苦しさを共有し、一つの目的で力を合わせ、力を合わせたら思いもかけない大きな力が生まれた。沖電気争議の大きさと、奥の深さを改めて感じる。

この体験は、今回の巨大津波で被害に遭った多くの皆さんに重なるものであろう。

新たな連帯をめざして、新たな、それぞれの一步を踏み出したい。



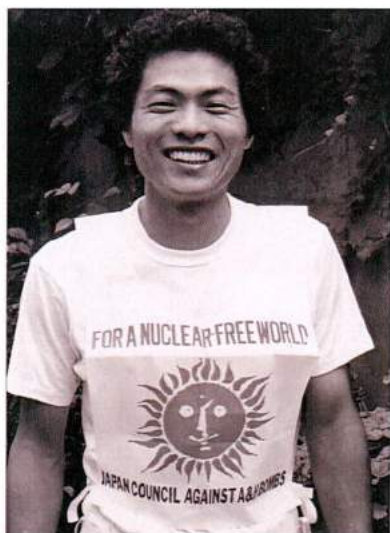
貧しかったけれど、いつも元気に溢れていた沖電気争議団家族会の旅行

争議解決25周年を迎えて — 沖電気の仲間たちからのメッセージ —

(☆印が元沖電気争議団員)

今春、東京自治労連を定年退職

☆荒木 貞



争議の頃から原水爆禁止運動に熱心だった荒木さん。

この春3月末で、東京自治労連を定年退職します。

争議解決後、都区職員生協、都職労本部、東京自治労連と職場が変わってきました。この中で最後の2年間は少しハードだったのか、視力の衰えとこれまでの仕事からの疲れなど

で、心身のリフレッシュを図ることが必要な状態になっており、しばらくの間心身と体調をととのえることを最優先させ、再雇用はせずに少しのんびりしたいと思います。

仕事を引き継いでくれる後任の若者も決まり、今月末までに引き継ぎを完了させるため、連日メチャクチャになっています。この先、夏見台団地の家の再整備などのリフォームをやりながら、体のリフォームをしていく予定です。

地味で暖かな活動と時々妻の実家で野菜作り

☆飯田 康男

2009年6月に東京土建を退職しました。今は地元の共産党支部に所属。おじさん、おばさんなど、

わりと高齢の党员の方々と一緒に地味で暖かな活動に参加しています。時々亡くなった妻の田舎の富津へ行って畑で野菜作りをしています。暖かくなったら植えられるよう準備をしています。できたら知り合いに分けてあげます。

(妻は同じ沖電気争議団故飯田喜久枝さん)

定年の日に、花束と送別会

☆板垣てつ子

毎日ご苦労様です。夫婦で集会に参加をしたいと思います。よろしくお願ひします。皆さんのおかげで2010年6月20日に無事定年退職することができました。最後まで仕事をつづけられるかどうか自信がありませんでした。もう少し頑張ってみようと思ひながら仕事をやってきたので本当に嬉しかった。定年の日に課長が課全員を集めお別れのあいさつをさせてくれ、花束、記念品、送別会までしてくれました。これから、自分らしく楽しく暮らしていくために役立つのだと思ひます。今は地域で皆さんに教わりながら楽しくやっています。



争議解決25周年集会を迎えて

☆梅沢 規子

沖電気争議解決から、25年も経って支援して下さった皆さまとともに記念集会を持つことができるなんて、争議中はもちろん、解決時には考えても見ませんでした。

何もわからない私たちを、ここまで導いてくださった支援する会の方々、弁護士の方々のご指導と、心あたたまるご支援・ご配慮を頂いたおかげと本当に感謝しています。

私は、解決後、日本国民救援会の中央本部に就職しました。

最初の仕事は、毎年3月18日に行われる救援会の重要な行事の一つ「解放運動無名戦士合葬追悼会」を記録した冊子「解放のいしずえ」のなかの合葬された方々の経歴を原稿にすることでした。この仕事には17年間たずさわりました。

入所した頃、救援会は会員5万人をめざす運動の真最中で盛り上がっていました。争議団での私の担当は「支援する会」でしたので、共通点もありましたが、弾圧事件に関しては少々、えん罪事件に関してはまったく知識がなく、一から手を取って教えていただく毎日でした。

沖電気争議は解決まで約9年間かかりましたが、えん罪事件をたたかっている方たちは、20年、30年と繰り返し再審を求め、真実を訴えてつづけていることを知り、本当に頭が下がりました。この努力の積み重ねが、「菅生事件」「布川事件」などの勝利、「名張毒ぶどう酒事件」ほかいくつもの事件の再審開始決定につながっているのだと思います。

現在は、鶴川地域で活動しています。先日、地域の市議会議員さんを招いて、介護保険料や後期高齢者医療保険料の値上げの問題の学習会をもちました。

また、一昨年秋に、沖電気争議団の記事を沢山書いてくださった元「赤旗」記者玄間太郎さんご夫妻、沖電気の職場で争議支援をしてくださっていた根本正子さん夫妻、元争議団の中屋重勝さんなどと一緒にチベット旅行に行ってきました。若い頃からぜひ行って見たかったところで、75才に

してやっと念願がかないました。

皆さまのご健康とご活躍をお祈りしています。

ガードマンをして

☆折戸 光次

僕自身自信をもっているのは、この病気になっても、37才から38才までボーリング場の守衛をしたこと。1年間は、夜昼、逆転させて、マスターの命令を紙に書いて、作業標準書を作ったこと。仮眠時間があるので、昼は、交通誘導をした。I先生から、薬をもらうだけでした。そして、その名古屋市港区のボーリング場でカギの管理や夜の巡回の時間を決めたこと。ボーリング場のくつ交換を1時間程して、客に夜盗み入ろうとしても守衛がいるということを知らしめたこと。ガードマンの基本は、もし、泥棒がきたら警察に知らせて逃げろと言うこと。火災報知機はよほどでないとうるまないこと。

ボーリング場は、第1次ブームのころ造られた。



争議中の元気な折戸光治さん(右)

しかし、その後はやらなくなり、従業員を解雇したらしい。その時ガードマンの作業標準書も、盗まれ、それを僕が再成させたらしい。

ボーリング場は港区にあり、従業員の交流場として、第2次ブームがおこり、はやり始めたらしい。滋賀交通という小さな会社の下請けだった。それが、ワンマンの社長が名古屋進出の場とした。作業標準書を作ってみると実に見事に駐車場を1階とし、2階でプレイするには最高に作られていた。そして僕は夜2階で、歌を聞いていた。発想の転換が必要だった。従業員の中には優勝者には、トロフィーでなく、しょう油を、景品として送るというアイデアを出した人もいた。

1年間、春夏秋冬とやってみると雨もりする場も、教えてくれる人も出て来た。

僕はいつも失脚させられる。その作業標準書で誰でも、警備できるようにしたので、もっと安い給料の人でもできるようになった。

そのころHさんと交流し、塾をつくらうとしていた。やはり、僕は、アイデアを出すだけで、現実には食べない、家庭教師だ。

争議解決25周年集会を迎えて ☆鹿角サダ子

八王子の職場に戻って25年、まさか今また、闘いの中にいるなどとは思ってもよらなかったことです。沖電気の半導体部門がローム本社に売却されたのは08年10月。08年12月から始まった大合理化で600名もの人減らし、ローム本社、株主総会で大宣伝行動、シンポジウム、八王子市役所への要請行動、八王子市副市長が京都ローム本社を訪ね、ローム社に八王子での事業継続を要請等、様々な運動を展開してきましたが、3年半で今又大合理化(2度目の指名解雇?)です。人間として、働いて普通に生活し、生きる事がこんなにも大変な世の中、吹き荒れる大企業の横暴と直に闘える喜び?と思って力をふりしぼり頑張り貫きたいと思います。これからもご支援をよろしくお願いいたします。

争議解決25周年集会を迎えて ☆金子 輝人

争議が終って25年、月日の経つのは本当に早く感じます。一昨年、定年を迎え現在再雇用で働いています。争議中に生まれた二人の子供にも、子供が生まれ、本当の「ねこ爺一」になりました。(職場ではネコ爺一と呼ばれています)これからも自分のできることを一步一步進んでいきたいと思っておりますので、これからも宜しくお願いします。

争議解決25年

☆北村 晴夫

87年6月、13人の仲間と本庄工場へ復帰しました。我々に対する会社の扱いはひどく、従業員との隔離が続き、朝、主任と話すと1日中口をきかない日が続きました。娘が交通事故にあった時、高校の先生からの連絡の電話に本人をださないということさえありました。このような中、真喜志さんが体調を崩し、「このままでは殺される」と裁判に提訴し闘いを開始しました。職場の要求にも耳を向け、それまで残業時間や休日に行っ



わらび座での交流会で娘に叱られた。

ていた、社内教育や、はんだ付けの資格取得試験を残業代を支払うよう要求し、残業代を支払わせる。その後は

社内教育は時間内に行うなどの改善。JIT(ジャストインタイム)の立ち作業を改善させるために労基署に申告、調査に入らせる。製造現場の子会社化で反対意見を朝礼で発言するなど、復帰者の努力で職場での信頼も勝ち取ってきました。

2006年に定年を迎える時に高齢者雇用法が施行された時再雇用を会社に申請。再雇用の4つの条件(①働く意欲がある者②協調・協力して働く事ができる者③心身ともに問題がない者④グレード3以上の者)のうち、働く意欲が見られない、協調性は職場から問題があると言われていた北村さんは職場の問題をすぐに外に出して解決しようとする。グレードは2だ。③の心身ともに問題がない以外の条件を満たしていないと再雇用を拒否されたが、ハローワーク、厚労省、沖労組などへ働き掛けシニア社員として採用。申請すれば誰でもが採用される道を開きました。

現在は年金者組合に加盟し、本庄・児玉地労連の幹事として、労働相談をしたり、本庄原水協、上里町9条の会の平和活動などに参加しています。

労働運動とうたごえ運動と

☆高屋 修

皆さんお元気ですか、早いもので私が岩手に戻ってから20年になります。いわて労連事務局に入ってから15年目となり、いわて労連事務局の定年を来年に控えています。

岩手に戻ってから5年くらいは中小企業で生産設備設計製作の仕事を静かにやっていたのですが、いわて労連に、沖電気争議団が戻ってきているということを知られ勧誘を受けました。電話では1

度断ったのですが、1996年に日本のうたごえ祭典が盛岡で行われて「ぞう列車」の指揮を振った時、打ち上げていわて労連議長に「なぜ俺の所に来ない！」と面と向き合っていわれ、返す言葉がありませんでした。その後考え、“技術屋としてはもう一段落でいいか、アメリカに機械の据え付けにも行ったし。あれだけ争議で応援

してもらったんだから今度は応援する側に回ろう”と、1997年にいわて労連事務局に入りました。いわて労連では総務・財政、機関紙、ローカルユニオンなどを担当しています。

今でこそ個人加盟労組ローカルユニオンは全国にありますが、未組織労働者の受け皿としていわてローカルユニオンを起ち上げた当時はどんなものになるかもわからない状況でした。現在執行委員長を3期やっていますが、こちらも今年の7月で改選の予定です。

もう一つのライフワーク「うたごえ」でもあの頃は滝沢ぞうれっしゃ合唱団の立ち上げと公演、昔の仲間とうたごえサークル「ひろば」の結成、夫婦デュオ「Part Time」の結成と演奏活動など、環境がいろ

いろと動いた時期でした。いわて労連に来てからは技術屋時代にはあまりできなかったうたごえ活動も大々的に行う事ができ、隣の医労連の事務局にいるうたごえ活動家とも協力し合いながら、職場のうたごえが(頭だけではなく)薄くなっている今、ローカルユニオン運動とタイアップして、集会、メーデー、「うたごえの夕べ」など労働運動にうたごえを響かすことができました。歌の創作も再開し、組合運動で知り合った、いろいろな人との交流の中から、ローカルユニオンソングなど沢山の歌を作ることができました。自費出版ながら「Part Time」としてオリジナルCDアルバムを2枚出すこともでき、全国で歌ってくれる仲間もできました。この15年は一言で語る

ことはできませんが充実した15年でした。今後の希望を言えば、定年後には(すぐにいわて労連から離れることはないと思いますが)、今度は少し音楽に集中的に取り組んでみたいなどと思っています。作曲法、編曲法、何をするにしても基本はピアノだと思い、3年ばかり独学でピアノ練習を続けています。

さて、去年は忘れられない年になりました。

た。3・11の東日本大震災・津波、せめて津波がなければあれだけひどいことにはならなかったと思います。今はスタンスが救援から復興へと移り、時間はかかっても前に進んでいくと思います。一方、福島原発の事故はいまだに収束が見えません。高田松原の被災松を大文字焼きに拒否されたり、放射能のほとんどない地域のものでさえ瓦礫処理を拒否されたりと、さしのべる支援の手すら萎えさせる見えない放射能の恐ろしさを感じます。原発再稼働の動きもあり、原発ゼロへは長い運動になるでしょう。廃炉までには30年かかるとのこと、機関紙「いわて労連」に載った年金者組合盛岡支部の川柳「生き抜いてフクシマ廃炉見届けん」。



「まげねえぞ東北、ふるさとに元気を！取り戻そう笑顔！」と取り組んだ交流会も大成功。うたごえサークル「ひろば」の演奏、右から5人目が高屋さん。

母の思い出

五味田哲洋（37歳）

母が沖電気を指名解雇されたのは私が小学校入学前で、正直なところ当時のことをよく覚えていません。当時は自宅からではなく、市内に住む叔父の家から保育園だけではなく学区外の小学校に通っており、同級生とは違った通い方が今にして思えば不自然でした。ただ、私にとってはこれが当たり前のことで、全く違和感はありませんでした。

当時母は、沖電気という大企業を相手に仲間と団結してたたかい、解雇撤回・職場復帰をめざして労働組合や民主団体などに支援を求めながら、世論を味方につけようと奔走していました。そんな多忙な中でも、毎日夕方には迎えにきて、授業参観や家庭訪問、運動会などの学校行事も欠かさずこなし、夏休みは毎年山形の祖母の家に連れて行ってくれるなど、親としての義務はしっかり果たしていました。その頃の思い出と言えば、自宅へ帰る車の中でコンコンと忘れものなどを説教。逃げ場のない私にとっては、地獄のような日々でした。その頃のことがトラウマとなって、母が運転する車の助手席に乗るときは、今でもドキドキします。

<運動会差別事件のこと>

そんな中、ある事件が起こりました。沖電気の社内運動会に参加していた父を応援するため、社員の家族として参加しようとしたところ、母は敷地内に入ることすら許されませんでした（他の社員の家族は中に入っていたのに）。会社の門前で警備員と押し問答している姿を、今でも鮮明に覚えています。企業の論理の前では、家族の情さえも切り捨てられる場面を目の当たりにした事件でした（当時の私は「なぜ、なかなか入れないんだろう」程度にしか理解していませんでしたが）。

<争議中の楽しさから、学んだこと>

一方、支援団体の行事や祭りに母に連れられて

よく参加していた私は、様々な団体の活動家の方々と知り合うこととなり、様々なことを学びました。中でも、労働歌はよく耳にし、一緒になって歌っていたので、私の年代にしては結構知っているほうだと思っています（休日に父が頻繁に自宅でアコーディオンの練習をしていたことも影響しているかもしれません）。

多くの方々に支えられながらたたかった争議は、私の小学校卒業・中学校入学と偶然にも時を同じくして解決を迎え、母は職場復帰を果たすことができました。ただ、残念ながら同じ職場ではなく、本庄



左が長男克洋夫妻、右が筆者の哲洋さん。靖子さん退職の日

工場への配属となったため、片道2時間以上の通勤を余儀なくされました。また、職場に復帰するも、上司や同僚から様々な嫌がらせがあったと聞いています。そんな職場でありながらも、粘り強く(?)定年まで勤めあげ、最後の日に会社の門を出てくる母の姿はどこか誇らしげでもあったように思います。

争議中も職場復帰後も数々の困難や苦悩があり、くじけそうになったこともあったそうです。そんな母を支え、励ましてきたのが父でした。大きなたたかいの時に家族の理解や協力が何より重要だということを知りました（理解のあった兄とは違い、私はわがまま放題でしたが）。

<いつの間にか見ていた親の背中>

そんな両親の背中を見て育った私は、働く者の権利を守り、発展させる母のような生き方を無意識のうちにしています。今では、埼玉土建の専従書記局員として、建設現場で働く仲間の仕事とくらしを守るための活動に身を置いています。両親を超

えることはまだできていませんし、両親の期待にも応えきれてはいません。しかし、両親に恥じるような生き方を、私自身はしていないと思っています。

充実した老後の生活を送っている(?)両親を、生き方の面でも、仕事や活動の面でも大先輩として常に見習いながらこれからもがんばっていきたいと思っています。

「たかがアコーディオン」が こんなにも

五味田洋清

趣味でやっていたアコーディオンが定年後、こんなに必要とされるとは思ってもいませんでした。毎日がサンデー、さて、どう過ごしていくかと思っていたら、とあるところから「うたごえ喫茶で伴奏してくれる人を探しているんです」と声がかかったのです。わたしみたいなものでいいのだったら、とOKしたのがその始まりでした。いつしか、その「うたごえ喫茶うらわ」も常に満員の盛況となり、有名になっていきました。

その評判を聞きつけたのか、さいたまでも有名な高級ホテルが企画した「うたごえ喫茶」の伴奏依頼、200名をこす人たちが集まってきました。それが大手新聞にも掲載されました。

テレビの10チャンネルの昼の「ワイドスクランブル」にも、「昨今のうたごえ喫茶の広がり」として取材も受け放映されたのです。へえ、こんなこともあるんだ、と思いながらの毎日でした。

決してうまいアコーディオンでもないのに、「五味田さんの伴奏はみんなを盛りあげてくれる」「心があるね」「気持ちよく歌える」と声をかけてくれる方が多くなりました。そうかなあと思うのですが、私は弾きながら一緒にみんなと楽器を通じてうたうのです。弾きながら興奮もしたり、楽しんだりするのは一緒なのです。

いま、地元では、私の行く先々についてくる「追っかけ」が出てきました。おばさんたちです。おじさんも少しいます。

いいんです、おばさんでも。ないものねだりはしません。ありがたい、大事にしたいと思います。

そんなこんなのはいまは、毎月半分近く、あちこちを飛び回っている毎日です。

今年、古希を迎える私です。アコーディオンは体力いります。

2時間も伴奏しっぱなし、終えてぐったりします。腰も痛いです。しかし、皆さんが嬉しそうに会場を後にする姿を見るといっぺんに疲れが吹っ飛ぶのです。

30歳前に始めたアコーディオン、労組青年婦人部活動でも、沖争議のなかでもいっぱい鍛えられたアコーディオン。40年間のその経験が、いまの自分にあるのだと感謝、感謝の毎日です。

復職・定年でドイツ語の勉強

☆齋藤 和成

今、定年になり、福島県相馬市に住んでいます。最近、頼まれて、仮設住宅へのピラまきをしたのですが、仮設住宅が1500軒あり、2000人以上が住んでいます。200軒位が単位で5、6人で一日かかりました。

ここ相馬は10mほどの津波があり450人位が、亡くなりました。また、原発から42kmのところにあります。まだまだ復興には時間がかかりそうです。

昨年9月20日に定年になり楽しみにしていた、ドイツのケルンにドイツ語の学習に行ってきました。クラスは十二、三人で、エジプト、スイス、フランス、メキシコ、イギリス、台湾、といろいろな国から参加していました。ほとんどはドイツの大学に入りたいとか、ドイツで働きたいという人たちのため、みなさん真剣です。年齢は二十代前後がほとんどで、先日も



ドイツ・ケルンの語学学校のクラスメイトと。
世界の若者の中で1人しっかり輝いています

誕生日の人がいてしっかりしているので年を聞いたら19歳と言うので驚きました。彼は、朝必ず、挨拶をして、いろいろな人に昨日どうだったとか、元気とかききます。なんでもないことのように、これがとても大変なことです。週末には必ず試験があり、そのため毎日、4、5時間は、予習、復習しました。先生は一ヵ月とか一ヵ月半とか長期の休みを取ります。職員の人と同じで6週間の休みでインドネシアに保養に行くといっていた人もいました。先生も休みのときは代わりの人に来て、別に困ることはないのですが、長いので先生が変わったような気分になります。長期にバカンスを取るとは聞いていましたが、驚きでした。住居はホームステイで、70歳を越えた未亡人の家にお世話になりました。旦那さんは医者だったそうで、料理がうまく、昼のお弁当も持っていける快適な五週間でした。ドイツは離婚率が50%だそうで、空いた部屋をホームステイに使っているところも多いそうです。今度は、もう少し長く行きたいと計画しているところです。定年になり田舎に住むのは、なかなか大変です。仕事は少ないし、原発はどうなるのか分からない。やはり都会はいいなあと思います。

闘う女性とともに

☆齋藤 洋子

職場を迫られて間もなく東京争議団の皆さんが駆けつけて下さいました。日産自動車の定年差別で「一歳の差別は一切の差別につながる」と裁判にも訴えている中本ミヨさんの話は印象的で、闘いを知った時の驚きは忘れられません。色々な職場で、女性に対しての差別と闘っている人を知り、私達の指名解雇も女性に対しての差別がある事を訴えました。



齋藤さん宅で見つけたゼッケン。

男女を問わず働く環境も様変わりして定年という言葉が死語になってしまいそうです。

十年近く時を共にした仲間の集う楽しい会でもあります「定年を祝う会」が毎年のように開かれますが、

その中で女性が定年を迎えられた事を嬉しく思う気持ちを強く持ちました。五十歳台で、中村光子さん、松本和子さん、飯田喜久枝さんが亡くなり前後して私も免疫異常を患い退職し、健康で働き続けられる事の難しさも痛感しました。

新藤兼人監督の「陸に上がった軍艦」を観に行き、この映画を配給した社長に偶然出会い、再会を喜びその場で仕事を勧められました。働ける体と思っていまらなかったが、色々配慮して下さり週に一日の勤務ですが今に至っています。通勤する事で体力も付いたように思います。

争議解決後、三度転職をしましたが、全て支援して下さいました。争議が終わってからも楽しいお付き合いが続き、感謝の気持ちでいっぱいです。

ご近所の方とも仲良しになり、健康で楽しく暮らせる事が大切と思う毎日です。

断酒生活を継続中

☆笹嶋常信

おかげさまで、私、断酒14年を過ぎました。これは「東京八王子断酒新生会」の仲間、駒木野病



横井久美子さんによる沖電気争議支援コンサートの2次会で元気な笹嶋さん（右端）

院、家族、地域の仲間の人々、沖電気の仲間たちなど、私を支えてくださっている方々のおかげと感謝しています。これからも「一日でも長い断酒人生を」「一人でも多くの回復者を」をモットーに、お酒を口にしない、ちょっとはましな人間として生きていきたいと思っています。アルコール依存症者は酒を止めてナンボ。私は断酒の土台の上にとれだけの

ことが出来るのか、という人間だと思っています。

一昨年から、今度仕事に就くなら福祉関係の仕事に就きたいと考え、ユーキャンの通信教育で勉強を初め、昨年1月、「福祉住環境コーディネーター2級」の資格を得ることが出来ました。ところが、このご時世と私の年齢から専門職としての仕事に就くのは極めて難しく不可能とって過言でなく、諦めて、福祉関係のお役にたてればと考えています。

私は今月、60歳になります。妻も今月53歳になりました。60歳とちょっと年をとりましたが、まだまだこれからだと思えます。

(OB会ニュースに送られてきた近況報告から)

「解雇通知」は人生の贈り物

☆佐藤 正子

25年前の11月、沖電気から郵便書留で「解雇通知」が届きました。11月生まれの私にとって、会社からの25歳の誕生日祝いでした。この“贈物”を長い間、恨めしく思っていました。今では本当に“贈物”だったと思っています。



何も解かっているのに理屈っぽく生意気で可愛気のないこの性格。争議でいろんな人に出会い、助けられ支えられていなかったら、今頃は友人もなく寂しい毎日になっていたにちがひありません。仲間の絆(と思えるようになりました)をありがたく思っています。

クモ膜下出血という大病を患い、今も3カ月毎に通院をしています。風邪一つひかず今はマンションの管理員の仕事をしています。

都職労時代の書記仲間、「絵手紙教室」を月

1回行っています。今、2013年カレンダー作成に励んでいます。2013年には私も還暦を迎えます。無理せず、しかし自分に出来ることはちゃんと行う毎日を送りたいと願っています。

旅三昧の私

☆佐藤 一夫

さて、ハガキにもありましたように新春のお誘い、大変恐縮であります。

私は明日からでも、午後の便にてショートステイになるかロングになるか今はわかりませんが沖縄地方に一周忌などの用事もかねて、出かけてしまいます。また春ごろ戻りましても、今度は北京からモンゴル、東シベリア、清津港(?)などへの長旅も予定しております。

大変、余計なことではありますが準備のことなどもありましてお知らせを。乗り合いバスで、途中の国モンゴルでは、強い治安の心配があります特に日本人に対して、この大平原で盗賊によって命を落としても発見はむずかしいようです。他にも同国に於いてはコウモリ、狼などによる狂犬病も深刻なようです。接種の必要性も。シベリアでは草原のダニによる脳炎。日本では発生がないためか、治療はできないようです。この脳炎は発症すると命が時間によって限られてきます。接種のみは日本でも可能(?)と、いうことですが調べてみないとわかりません。このように細かいことへの準備もしなければなりません。

個人でのロシア陸路入国のためバウチャーの多様なコースの申請に制限があります。ハワイや、米国などへの旅行は、失礼ながら簡単ではありますが、私のこのような地域への旅は特に慎重なことが必要になってきます。準備のための時間大です。以上のようなこともありましてお話の件はもう少しお待ちいただきたく存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

いままでの私の文章を”見ると”わかるように恥ずかしながら私は”日和見”です。人にお話するようなことは何もないとおもいますが、家の者が言っております。この旅をひとまず最後にして、今度は何の心配もない日本で旅行しましょう。二人でね。

美しい日本の山々もいいですよ、ススキの穂が風になびいて、そんなところで。のんびりと、露天風呂の湯の香りの中に。夕食は少し、美味しいものでも食べましょうかね。私はいままで、しがない日和見男でしたが、今度はもう一つ”上をめざして”それは今年からでも、”世捨て人(よすてびと)”にでもなりたいでしょうかね。いつものつたない文章になりました。とりあえず、ご連絡まで。長くなりました申し訳御座いません、以上であります。

介護の仕事25年

☆菅野 江美子

生協戸塚病院で看護助手として介護の仕事をして早や25年になります。現在は長男と3男坊(ネコのピーちゃん)の3人暮らしです。時々我家に遊びに来る2歳の孫とピーちゃんにいやされています。3月から友達数人と卓球を始めました。(終わった後のおしゃべりと飲み会を楽しんでいます。)

冲争議解決25年の感想と近況

高田 昭治

25年という歳月は、過ぎ去ると早いように思いますが、大変大きな、重い意味をもった4分の1世紀でした。この間に冲電気を定年退職し、ほかの仕事をしたり、地域などの活動もあり、息継ぎもできなかった期間という実感があります。

電機の運動との関わりはだんだん小さくなり、しばらくは電機ユニオンの活動に関わったこともありますが、今は名ばかり組合員となっており、今残っているのは、電機ペンの会で「からむす」を編集し、執筆するぐらいになっています。あと、OAKの機関紙を送っていただいているので、職場の状況に想像を巡らすことはできます。

800字で25年を総括するのは難しいので、近況を書きます。

昨年、膀胱ガンが見つかり、幸い転移は見つからなかったので、膀胱と回りの臓器を摘出する大手術を受けました。今日まで定期的な検査を受けていますが、今の所は異常はないということです。し

かし、体力、免疫力の低下はいちじるしく、ストーマという人工尿道をつけ(これは身障者扱いとなり、4級の身障者手帳を保持)、いろいろな意味で生活は一変しました。



近くの柏レイソルサッカー場の公園で奥様と

市民活動では、体を使う活動はできるだけ免除してもらっていますが、デスクワーク(地域やサークルの新聞づくりなど)はむしろ増えております。

また、東京へ出かけたり、遠距離の旅行はできるだけ避けるようにしていますが、どうしてもという場合もあります。

また、さまざまな事情から、共産党の地域居住支部の支部長も引き受けざるを得なくなり、さらに地域共産党後援会長も引き受け、大変忙しい日常となっています。今の健康状態では、このような活動は長続きしないという自覚があります。

自宅には、冲争議関連の膨大な資料があり、これらは、ぼつぼつ電子ファイル化してCDあるいはDVDに焼いて、OAKの歴史遺産として遺したいと考えていますが、道半ばです。

写真は連れ合いと近くの柏レイソルサッカー場の一角にある公園で撮影したものです。連れ合いも昨年、子宮ガンの摘出手術を受け、目の具合もよくないので、半病人一家となりましたが、できるだけ仲良く、長寿を目指します

昨年、港区労連が20周年

☆高橋 孝

争議が解決して港統一労組懇(統一戦線促進港区労働組合懇談会)で数年活動していましたが、連合(日本労働組合連合会)が発足し、全労連(全国労働組合総連合)誕生を機に沖電気争議を支えていた労働組合が中心になって港区労連(港区労働組合総連合)が1991年12月11日に結成され



ました。昨年20周年を迎え、1月12日には旗開きを兼ねて「港区労連結成20周年記念レセプション」を過去最高の参加者で行いました。昨年の11月、12月は「20周年記念事業(記念誌の発行、レセプションの準備)」と新年号の発行と大変忙しく、新年を迎えました。20周年記念誌には三田労働基準監督署の署長や東京都労働相談情報センター大崎事務所(旧南部労政事務所)所長の祝辞とともに初めて港区長が祝辞を寄せてくれました。港区労連の20年のあゆみを感じました。「当初は参加組合も少なく心細い思いをしましたが、次第に仲間も増え、取り組みに対する確信が持てるようになりました。・・・夜明け前の寒さが一番きびしいと言われます。港区労連結成に向けた運動に参加できたことが生涯忘れられない思い出です」と争議の時にお世話になった三田自動車教習所(閉鎖)の労組委員長だった星さんが思い出を寄せてくれ、活動も金銭的にも厳しい中、仲間とともにがんばってきたことに自分ながら胸を熱くしました。港区労連には労働相談も増え、昨年一年間で90件を超えました。現在、東京地評の南部ブロック選出幹事(1年ごとの輪番制)、港区労連事務局長として活動しています。特に「整理解雇」と関わっている

日本航空の仲間を支えるために南部での支援強化に取り組んでします。写真は東京地裁判決前の地裁前での宣伝の時です。

なお、港区労連20年のあゆみと港区労連20年の記録CD(新聞など収録・1枚1千円)の在庫があります。希望の方はご連絡ください。

福島から

高橋 重雄

北村様、争議解決25周年記念集会のご案内をいただきました。ありがとうございます。

早いもので、あれから4半世紀が過ぎたのですね。私自身としては、いまだに記念集会参加を決断できないでいますが、沖電気争議にわずかではあっても関わった者のひとりとして是非参加したいと思っています。

思えば、沖電気争議が、私の目を開かせてくれたことは間違いありません。このことが、私のそれからの生き方を決めたと言っていると思います。

それまでの私は、当時の電機労連新聞からしか労働運動について知ることができませんでした。

そんな中で、沖電気争議を支援する皆さんの集まりに顔を出す中で、「世の中には、こんなにも資本の横暴とたたかっている人達がいる」との思いを強くしました。

定年退職から8年余、現在はJMIU福島地域支部の執行委員長として、また、福島県労連労働相談センターの相談員の一人として活動しています。



県労連の労働相談員を務める高橋さん(右端)

「福島県労連労働相談センター」で検索していただくと、そこに老いた私の姿が他のメンバーと共に撮り出されています。良かったらご覧下さい。

前記の役割はともかく、今は県労連(県復興共同センター)の要請に基づいて、福島県外からの「仮設支援ボランティア」の受け入れについての段取りの方が主任務になっています。

昨年末は、栃木・神奈川の争議団の仮設訪問があり、2月始めは長野高教組からの「そば打ちボランティア」受け入れで活動しました。福島市内には、多くの仮設住宅がありますが、大規模な所はともかく、中規模以下の所の実態はつかめていないのが実情です。

このような現実から出発して、すべての仮設住宅の現状をつかんで、私達の活動をくまなく行っていく必要性を感じています。そのために機動力を発揮したいと思っています。

シニアの生活

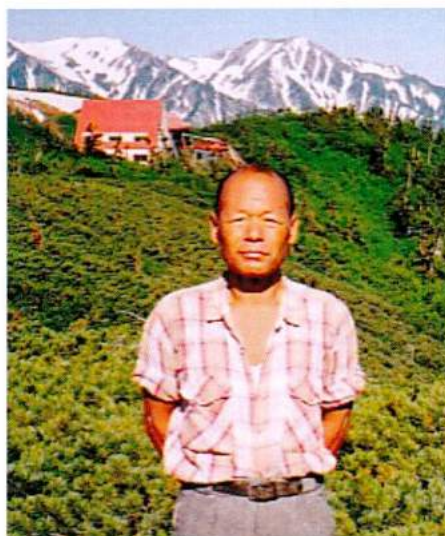
☆辻野 正弘

定年後早いもので10年が経過し70代シニアの現在である。幸いに回りの人達にめぐまれテニス(硬式ソフト)、バスケ、ビーチバレー、バレー、バドミントン、野球、フットサル、個人的にはランニング、水泳、登山、筋トレといろんなスポーツを継続してやってきた。

スポーツ以外では映画(自主上映中心)、演劇、環境関連、原子力関連、護憲関連のシンポやフォーラム、又市民農場での野菜作り、住居近くの空地での花作り(個人で勝手に)、この中では近所、周辺のお年寄りに一番喜ばれたのが花だった。今現在春を前に種から植えたスイトピー、矢車草、ポッピー、チューリップ等がぐんぐん育っている。

最近(2011年)の参加頻度はテニスで年間49回、バスケで年間26回、バチミントンで年間22回、映画で月3~5回、今特徴的なことはやはり原発関連のシンポや映画勉強会が、かなり多い。

最後にシニアの生活で気がかりなことがある。男性、女性の色んな催しへの参加比率の大きな差である。例えば社会派の映画で意に反して90%以上女性、放射能関連の勉強会80~90%女性、日



後立山連峰を背に元気な辻野さん

常やっているテニスで80%女性、市のスポーツ施設でのトレーニングやエアロビクス90%女性、公民館等でのグループ活動90%以上女性、男性が目立つのが将棋や碁の集まりぐらい。登山でも主力は40代~60代の女性。社会が女性中心の方向に動いている象徴かも、それにしても男性はどうしたのか? 内にこもってしまったのだろうか?

解雇と闘う親のもとで

長井実和

どんな言葉で両親からその事実を知らされたのかも今はハッキリと思い出せない。当時の私は小学4年生だったが、そんなに気持ちが幼いほうでも無かったので、きちんと理解はしていたと思う。ただ父が会社に辞めさせられて母ひとりで稼ぐということの重みを味わうのは、少し後になるけれども。

片親を亡くしたり、大人の都合で両親と別れて暮らしていたりして苦しい生活を強いられている同級生は周囲にもいたし、いわゆる「鍵っ子」が増え始めていた時代でもあったので、自分がさほど特殊な環境におかれているという受け止め方もしていなかったのだが、周囲からの言葉や態度で「困ったな」と思う場面はいろいろあった。一番困るのは悪意の無い「お父さんは何をしているひと?」と訊かれることだった。これは学校の授業でもたびたび教師から問いかける質問でもあった。心の中では「お父さんは日本のよりよい社会のために頑張っている人です。」と胸を張れても、言葉で他人はそう伝えられなくて「よくわからない」と答えていた。父のことを尊敬していたのに、そんなふうにしかなら

る事の出来ない自分をひどく恥ずかしく思ったあの感情を今でもよく覚えている。悪いことをしているわけではないのに、妙にこそこそした態度になる自分も。

自分の両親を誇りに思えるという家庭は、今の世の中意外と少ないように思う。自分自身の学童時代も同級生は親への文句ばかり言っていたし、あれから20年以上経った今は更に親を見習おうと思う子どもは減ってきているようだ。私自身、もし争議が無かったら親のことをどう受け止めていたかと考



お母さんと弟と一緒に。争議団の家族会で。

えると、今より尊敬の念が4割くらい減っているかもしれない。私個人としてはあの経験はすごく良かったものとして受け止められている。人はいろいろな人と繋がって生きているのだとあれほど実感出来る体験は、そうそう出来るものではないと思うからだ。争議団の人たちみんなも、私たち子どもを自分の子どもみたいに気に掛けてくれたり、面倒をみてくれたりして、暖かく迎えてくれたし、争議を支援してくれた人たちの両親に対する心遣いに心打たれる場面もあった。もちろんそれは私の両親が争議というものをしっかりと受け止めて、私たち自分の子どもに隠すこと無く、また子どもであるからと言って親の都合なんだと一方的に押しつけることを決してしなかったから、ということもあるのだと思う。その、人としての生き方、関わり方、言動、行動全てを、時にはぶつかり合いながらも向かい合って一緒に考えてくれた両親が居たから自分自身も頑張って生きて来れたのだという気がする。子どもながらにどこか遠くへ行ってしまうたい。生きているのが辛いと思える時期はたくさんあったが、その度に争議

で闘う父と、職場に残っていじめに耐えている母の背中を思い、もう少し頑張ろうと自分が励まされてきた。その子ども時代に頑張ってきた自分が今の自分を支えていたり、自分の子どもへの関わり方に影響を与えているなど改めて振り返るとしみじみ思う。

いろいろ昔のことを思い出しながらこんなことを書いていたら、また明日も頑張るか前向きな気持ちになれた。

みなさん、これからもよろしく！

争議解決25周年にあたって

☆中野百合夫

1978年、28歳で指名解雇争議に入り1987年3月の「和解協定」で八王子事業所へ36歳で復職。復職後、今は亡き中村光子さんと新宿経由で高尾駅まで片道2時間弱の「長距離通勤」をしたことを懐かしく思い出します。職場復帰は「訓練室」から始まった。一言では言い表せない会社、組合一体の「差別攻撃」でまともな仕事や日常の挨拶すら難しい日々が続き“身を削られる”毎日であったことが今も「トラウマ」となっています。

その職場も2008年10月、篠塚沖電気社長はローム株へ従業員ごと売却。「沖電気の労働条件は継続する＝何も変わらないので心配はない」でロームグループの「沖セミコンダクタ」となった。しかし舌の根も乾く間もなく翌年から「希望退職募集を柱にしたリストラ」が開始された。その時、私は定年まで11ヶ月を残していました。私は「脳梗塞」を患ったこともあり仲間と相談し断腸の思いで「早期退職」の道を許してもらいました。

今も八王子の仲間はロームを相手に闘っており心苦しい限りです。退職後は「東京工場(旧芝浦事業所)」で毎月(2回)「あすなる」(OAK会員として)の門前宣伝をしております。

最後に争議中に結婚し生まれた長男(剛)に子供が生まれ「おじいちゃん」となりました。これからも酒を友に、死ぬまで「生きよう」と思います。皆さんもお元気で！

25年を振り返りこれからを思う

☆橋本 久雄

沖電気の争議が終わった後、民商や東京土建に勤めて25年が経ちました。四半世紀経ったわけですが、そここに沖電気の争議は一緒にあったのだと思います。土建の事務所を一步出れば、地域労連や様々な団体と接する中、そんな気がする日々だったように思います。

5年前に不整脈が見つかり、その後の治療の成果を見ることなくペースメーカーの埋め込みの手術を受けました。その後も体調は思わしくなく、再手術を勧められています。健康問題もあって、昨年、定年退職を選びました。

今のところ調整中といったところですが、体力とほどほどの健康を取り戻せればと、期待しています。近くの山を妻とハイキングもしながら体力づくりに励んでいます。

時間が前後しますが、土建の仲間から退職祝いに戴いた旅行券を活かして、前から行きたかった長崎に行ってきました。原爆資料館・平和公園、普賢岳、諫早湾と訪ねることが出来ました。平和と人の醜さ、自然の脅威、自然を壊してその先に見えるものは。欲張りな旅をすることが出来ました。



長崎港をバックにグラバー園より写す

今は地域の集まりに行けば「最年少」と言われ、戸惑うところもありますが期待はずれにならないよう小さな努力を重ねて行きたいと考えています。

自分のことばかり書いてきましたが、家族紹介をします。妻は、私が退職後にヘルパーの資格を取って働いています。相変わらず音楽の活動をする毎日を送っています。二人の息子たちは、上は数年前に進路を大きく変更して、今は看護師となって

います。下は相模原で自活しているのですが、多くの若者と同じように正規の仕事に就くのは大変なようです。

今も現役です

中山 洋子



争議の時から始めた短歌も三十年になりますが、いっこうに上手になりません。現在は「非核の政府を求める会」に週二日勤務。その他に居住の共産党支部の支部長。新日本歌人協会の常任幹事。生涯でもっとも忙しい日々を送っていると夫に笑われています。

青き布に切り躰しているひとときよ 夫の解雇は忘れていたし
屈するを拒否せし顔のすがしきよ ビラまく友の大きく見ゆる日
夫解雇されし職場に働くをたたかいとして日々はありけり
忙しき母持つ子らの作りたるカレーのにんじん花型しており
被災地のミシンを求むる声に応え風ある街にチラシを入れる
被災者に心届けてと中古ミシン三台集まる修理も済みて
カーテンを縫うのか服を繕うか送るミシンに添える白糸
被災地を見てきた今年の年賀状賀詞は書けずに迎春と書く

(争議中の歌)

(今年の歌)

相次ぐリストラと闘う

☆柳沼 俊男

私は八王子工場に職場復帰しましたが、2008年10月1日に沖電気の半導体事業部門が分社化され、その日のうちに株式の95%を京都のROOM社に譲渡するという会社分割法を利用した攻撃が行われ、沖電気からROOM社の傘下になりました。

社名は「OKIセミコンダクタ」となりました。譲渡直後から人減らし合理化(本体5割削減)が始まり、600人がやめさせられました。

2009年4月に、「OKIセミコンダクタの仲間と連帯する会(略称:OKIセミ連帯する会)を結成しました。会長に東京地評伊藤さん、副会長に三多摩労連議長、八王子労連議長、東京電機懇代表、法政大学教授、中央大学教授、など幅広い団体・個人を結集し活動しています。

2009年6月にはROOM京都の門前宣伝(東京からバスをチャーターし京都に行く)、ROOM株主総会に参加。

2009年7月には、高尾地域・商店会への聞き取り調査などをもちに沖問題シンポジウムを成功させました。

2009年12月さまざまな運動と支援のなか、自身の雇用延長が決まりました。

2010年10月には社名がラピスセミコンダクタ(株)となりました。

そして今、私たちの職場を宮崎に移管するということと、あらたな合理化が提案されています。

資本はいつまでも我々にのんびりとすごさせてはくれそうにありません。

争議解決25周年にあたって

☆影山 政行

争議解決1987年 東京土建江戸川支部で勤務

2009年11月 東京地評

2012年4月 東京土建本部

解決して25年、この間、東京土建江戸川支部、東京地評、東京土建本部と労働組合専従として働いてきました。解決日の「3月13日」の「3」「13」その後なぜか縁がありました。東京土建では10年間、税金対策を担当し毎年の重税反対全国統一行動日は3月13日を基本としていました。東京土建本部は組合員13万人を目標に、江戸川支部は中期目標として13,000人とし、沖電気を解雇された時の13,000人と同じです。東京土建江戸川支部の最高時組合員は、2008年の11,865人まで迫り、夢ではなくなりました。現在は、ちょっと遠のきましたが可能性は充分あります。

人によっては、13日の金曜日などを忌み嫌う人もいますが、私にとっては、こだわりを持つ数字です。



夜行バスでROOM社株主総会に向けて京都へ宣伝行動。大成功でした。

争議解決後 職場・地域での闘い25年。今新たな飛躍を

☆平井 盛博

昼休みの、職場内での「あすなろ」配布が100部を超えるほど配れるようになりました。休憩所を回って、「あすなろだよ」とみんなに渡し、工場の中を回って人を見たら渡して行くというやり方です。「もう誰々さんから貰ったよ」の返事も。復職時の犯罪者扱い、隔離差別の状況から様変わりです。真喜志君の差別を止めさせる闘いをはじめ、雇用延長、不払い残業、過労死認定、派遣労働者を守る闘い、職場集会での質問・発言、「あすなろ」の自宅配布、各々個性を生かして労働者との対話など様々な闘いで職場の信頼を勝ち取ってきた結果です。地域で「あすなろ」を配っていると「あのひどい中よくみんな頑張ったね」と言ってくれたり、組合の役員をしていた人が関連会社も退職して「やっと自由に物が言えるようになったよ」と話してくれます。美里町の笹井議員とともに、地域の様々な運動も頑張ってきました。最近仲間共同センターが出来て、派遣の仲間たちも誘って定例の鍋会が始まっています。

沖電気の指名解雇争議を契機に生まれた電機労働者懇談会。昨年は電機・情報ユニオンが結成されました。大量の派遣労働者を抱える電機の職場で、そして人減らし攻撃の中、闘いの財産を引き継ぎ、全国の労働組合運動と連携して組織を拡大し、運動を発展させようとしています。OBの皆さんとも力を合せ引き続きみんなで楽しく頑張りたいと思います。

せめて家族揃って楽しく食卓を囲む暮らしが当たり前となる社会を

池田佐和子（旧姓米田）

家事と子育てそして仕事に奮闘する夫と、元気な小学生の娘二人、そしてどんなときも援助してくれる両親に助けられ、今年私は社会人18年目となりました。福祉系の職場であるため、格差や貧困が浮かび上がる背景を持った方々と日々接する環境

にあります。でも、ボロ雑巾のごとくヨレヨレな我が身を叱咤激励しながら働くことにはそれなりの辛さがあり、毎日精一杯なのが正直なところ。社会変革を目指しながら厳しい争議や復帰後の職場で闘い抜いた両親とは随分とかけ離れた日々を過ごしています。せめて家族揃って楽しく食卓を囲む暮らしが当たり前の社会となることを願い、これからも働き続けていきたいと思っています。

争議団の子が劇団俳優に

真喜志 康壮

2000年に秋田雨雀・土方与志記念青年劇場に入団しました。良く、「俳優になろうと思ったきっかけは？」と聞かれますが、僕にとっては、俳優になるという事はごく自然な流れでした。

初めて公の舞台に立ったのは中学校2年生の時でした。ご存知の方も多いと思いますが、当時埼玉で行われていた市民ミュージカル「I LOVE憲法」でした。第一回の題材に沖電気争議が絡んでいた事もあり、とても身近に感じたのを覚えています。そして出演者の一般公募に応募した時、すでに演劇の道に進むことが決まっていたような気がします。I LOVE憲法の演出家と、僕の通う高校の演劇部の顧問が知り合いで、しかもクラス担任だと分かった時には「しまった、謀られた！」と本気で思いました(笑)

高校では剣道部に入団したのですが、結局、演劇部にも入る羽目になり、卒業後の進路では、電気系の資格でも取って手に職つけようかと思っていたところへ、「一緒に声優の学校受けないか？」という友人の誘いにホイホイついていってしまったら…今考えると、気がついたら俳優になっていた、というのが俳優生活のスタートでした。

青年劇場に入団して12年経ちましたが、今までには「こんな思いをするくらいなら、いっそ…」と思ったことは一度や二度ではありませんでした。それでも続けて来られたのは、汲んでも汲んでも尽きることの無い演劇の魅力、そして共に悩み、共に歩む仲間達が居るからでした。

今、5月に新宿の紀伊国屋サザンシアターで公演する、原発問題を主題にした『臨海幻想2011』の

稽古の真っ最中です。この演劇は1980年代に青年劇場で演じられたものですがそこに描かれていた事柄の、まさにそのものが昨年の大震災で、現実のこととなってしまいました。

「もはや3月11日以前の生活に戻ることは、決して出来ないだろう」

役作りの為に読んでいた本の中にこの言葉を見つけたときの、心臓をグッと掴まれた感じ、そして何より、被災した方々にはすでにフィクションではない。そう思う時、自分のやっていることの意味を、もう一度考えさせられます。

まだまだ稽古は始まったばかり、出演者一同、心を込めて、自分そのものを込めて舞台を創っています。(あ、お申し込みは眞喜志までお願い致します(笑))

2006年に同じ青年劇場の伊藤めぐみと結婚しました。夫婦で演劇のもつ可能性を探りながら、劇団活動と合わせ、地域での演劇を使ったコミュニケーションワークショップや高校演劇部で指導もしています。

「はたらく」にこだわり続ける

☆松本 謙司

沖電気争議解決25年 松謙投稿メモ

ふつうに「はたらく」ことが出来る社会が、好きです。

1974年、石油ショックの年「量から質への効率的経営」として沖電気の山本正明社長は役員報酬のカットなどと一緒に、品川、本庄、八王子の職場で一時帰休を実施した。64年・東京オリンピックの年に入社して初めて経験する会社による「はたらく」ことの調整だった。75年には生活が困窮しないと見做した臨時・パートなど約300人の解雇が行われた。生活無視で一方的に「はたらく」ことを奪う企業とそれを容認する沖電気労働組合の見解は「組合員でないから」だった。支援するビラをガリ版刷りで作成して芝浦工場の門前で被解雇者と一緒に配布した。復職はできなかったが少額の退職金は得た。「はたらくこと、団結すること」なしでは真の労働者になれないことを学び、私の信条の原点になった。

それから、3年を経た78年11月20日 1500人(後に1350人に修正)の希望退職募集に応じなかった93人と一緒に指名解雇された。33歳だった。本店営業で働いていた中山森夫(37歳)を代表に71人で沖電気争議団(平均年齢30歳)を結成して解雇撤回の闘いを開始。自らの「はたらく」とそれによる「生活」を奪還するためだった。大きく楽しい支援組織を創ることなしには勝てないと「支援する会」運動に詳しい都労連の小島宏氏の指導で「指名解雇された沖電気の仲間を支援する会」が組織され、事務局次長に就いた。

「宣伝の質と量が勝敗を決める」と日本機関紙協会の熱烈な援助で機関紙「はたらく」の編集を担当。「はたらく」ことの意味に拘った紙名だった。この支援する会はペンを持つ人はルポルタージュなどで。カメラを持つ人は写真で、詩、歌・・・特技を生かした多彩な支援は争議団を励まし、闘いを全国に広め勝利に貢献した。

1987年3月13日 闘争3033日 「捨て子の沖争議」(労働運動から見放された)など言われた争議は勝利解決。配ったビラ850種以上、1日平均4,780枚の圧倒的な宣伝力も35人の職場復帰と解決金12億9千万円の要因だ。勝利報告のパンフ「赤いゼッケン」を担当できたことは記憶に残る喜びだ。35人の復職者の一人に選ばれ本庄工場で就労開始。41歳。復職者は隔離・差別と仕事獲得などの闘いから再出発した。

「安心して人間らしく働ける職場」を願って86年に創られた「沖電気の職場を明るくする会」の活動に参加して、今年で26年になる。会紙「あすなろ」は4月で285号、沖電気に働く人々への「会」からラブレターとして定着。08年に沖電気の半導体部門がローム社へ売却、現在・ラピスセミコンダクタとなった「ラピスセミ・明るくする会」会紙は30号を超えた。充実を目指すホームページも含めて、争議で学んだ宣伝力の大切さを引き継いだ活動は頼もしい。①知って、②知らせて、③組織する。いよいよ③の段階だ。

争議解決25年記念誌(本誌)には復職した人、外で活躍した人の想いが凝縮していますが、復職者の活動にも誇れるものがあります。「はたらく」を失望させ、自死に追い込むような長時間労働とただ働き、定年後の雇用延長問題、成果主義賃金と

賃金抑制、92年から繰り返される首切り「合理化」……などたくさんの闘いがそれだ。

近年では使用者の雇用責任が回避できて、人件費を賃金として扱わないことが出来る「労働者派遣法」が職場で猛威を振るい、正規から非正規への置き換えが深化して労働者の「はたらく」(雇用)と生活と社会の土台を破壊している。派遣法は派遣先に対する罰則規定がほとんどなく、違法行為であっても雇用責任をとらなくても良いことになる悪法だ。先達が裁判等で苦勞して手にした整理解雇4要件を反故にし、半ば「解雇の自由」を得た資本との闘いは、「はたらく」が本質の労働者の闘いの柱で、避けられない。

私は名刺に「だれもが、安心して人間らしく働き生活できる社会を願って」の文言を載せている。この信条を心に貼り付け、自分を育てながら沖電気に拘って生きていきたい。

2012年4月27日 やっと67歳。

電機・情報ユニオン 松謙

あれから25年

☆屋代 眞

23才で解雇され、今年で58才になる。沖電気から解雇されたことで、その後の人生が決まってしまった。争議中は、先輩たちの後について、指示通りに動いていけばよく、生活は苦しかったが仲間たちがいて、多くの支援の仲間たちもいて楽天的な毎日を送ることができた。

争議後は、年間予算60万円の地域労連の専従となり、事務局長になると状況は一変した。アジの開きを毎月1000枚売り、産直米の販売、夏冬の物販などをやりながら自活体制を築いて、困難な情勢のなかでの労働運動の活路について考えなければならぬ立場に立たされるようになった。毎日飛び込んでくる労働相談に接していると、自分も右も左もわからなく、やたら怒りまくっていた労働者であったことを思い起こし、初心に立ち返らせてくれる。争議のおかげで、今の自分があり、あのまま会社において平凡な暮らしをしているよりも濃縮した生き方をさせてもらっていると感謝している。絶望の中にこそ希望があると言われるが、争議を振り返ると実

感する。

「りんごの樹は育った」
あれから25年
—山口勇子さんのことなど—
浅利 正

沖電気争議団高崎事務所の庭に「りんご」の樹が植えられました。

「りんごの樹」と数個の青いりんごの実は、平均29歳の、労働組合のことも社会のこともよくわからない、71人の沖電気争議団員とその子どもたちが、争議の中で、怒り、戸惑い、そして明るく、ねばり強くたたかい、育つ姿を、あたたかく見守り続けました。そして、8年後に勝利の日をむかえました。

さらに、それから25年、「りんご」の樹はたわわに紅い実をつけ、子どもたちは社会に巣立ち、争議団員は、それぞれの職場で中堅として活躍しています。

沖電気争議が解決して25年がたちました。

沖電気に復職した人たちは「職場を明るくする会」を足場に、労働者の支えとなり職場にたしかな地歩を築きました。また、医療・労働などさまざまな分野で働いている人たちは、それぞれの運動の中核となって活動しています。

もと沖電気争議団の皆さんの活躍が全国紙・誌で報じられるのを目にするたびに、全国の労働者、市民に支えられた沖電気争議の成果に心から充足感をおぼえます。

「沖電気争議を支援する会」の一翼を担っていた山口勇子さんは、沖電気争議勝利の知らせを、ウイーンで平和の対話集会に出席した席で知らされたといいます。

山口勇子さんは、87年6月に発行された沖電気指名解雇撤回闘争の記録写真集『たたかってよかった』の巻頭に「8年間の闘争で、より一層人間らしい魅力を得られたみなさんの、これからの活動を期待せずにはいません」と述べています。

争議後25年間の活動は、山口さんの期待に応えて余りある中味があると思います。山口さんは、2000年1月に亡くなりました。今日の私たちの姿を見ていただけないのが残念です。

山口勇子さんとの出会いは、沖電気を支援する会

機関紙「はたらく」1983年1月1日号に掲載するために、妻の勝美とふたりでインタビューをしたときでした。子育てや、指名解雇後の職場のこと、文学のことなど、話は尽きず、慶応仲通の中華店に席を移して、楽しい時間を過ごしたことを思い出します。「支援する会」の会員でもある山口勇子さんは、原水爆禁止日本協議会理事、日本民主主義文学会副議長なども務められ、自ら被爆者でもあり、「おこりじぞう」など多数の作品があります。「民主文学」に沖争議に材をとった「外階段」を発表しました。「りんごの樹は育った!」、を実感する今日この頃です。

沖電気争議を憶う（雑感）

☆中屋 重勝

1. 品川駅を通るのは年に数回だけとなり、東口に降りることは争議以後、まだ一回もない。駅もそして品川駅の東口、港南方面も今ではすっかり当時の面影はないようだ。芝浦も同様で、海岸側は、高層のマンションやオフィスビルが立ち並び、向かい側のお台場とともに、ウオーターフロントとか、近代的で若者に人気の場所になった。

品川駅東口を出てすぐ左側にあった沖電気品川工場が私の職場だった。コンクリート塀にかこまれて、門を入るとプレスや旋盤などのある、かまぼこ型の機械工場が、通路の両側に何棟か並んでいた。その南側には3階建ての比較的新しい建物さらに奥には古びたコンクリートの工場や事務棟が並んでいた。戦争中も空爆にも耐える構造に作られており、建物は平屋やせいぜい4階までの低層建築。そのなかで、電話・電信の交換機が作られていたわけだが、ベルトコンベアで流されるリレーやクロスバーなどの部品の組立、布線などには、たくさんの地方出身を主とする若年女子労働者が働いていた。

解雇前、品川の主力製品の交換機は大転換の途上にあった。それまではクロスバー、ワイアスプリングリレーで作られ、一つの電話局でも大きなビルに通話路を中心にたくさんの架が並んでいた。スイッチが開閉するガシャンがシャンという独特の音が響いたものだった。とくに音声を通す通話路は2台の

電話の間を一つの通話路でつなぐものであり、多くの加入者を接続するためのスイッチは、電話局のなかでも広いスペースを要した。我々の時代は電子化の初期。クロスバーのC400型から電子交換機に変わった。スイッチ部分は大幅に小型化されたとはいっても原理的には変わらなかった。ワイアスプリングリレーで組まれた制御装置、コントロール部が電子化され、ソフトとハードの組み合わせである電子計算機と同様なものになったのだった。今は、この音声は時分割で交換される。1対1でつながれていたものが、多数の通話が時間的に細かく分割されて同時に接続される。必然的にクロスバースイッチは不要になり、それを製造していた工場も労働者もいなくなった。品川駅東口に広い敷地を占めていた品川工場は電話交換機の変革で任務を終えたわけである。

このような通信機を巡る技術革新、構造変化がある指名解雇の動機の一つになったといえよう。解



解雇されて三日目に麻布公会堂で開かれた初めての支援集会で闘いの報告。

雇直後の宮崎IC工場建設に象徴される沖電気総体としての通信産業大変革への対応だった。興味があるのは、当時の沖電気がこの「構造的変革」をどれほど認識していたかである。設計の現場でも、方向としての認識はすでにあつたものの、まだ開発部門の現場でさえも具体的な姿は見えてはいない段階だったように思う。変革が急速に進むことを予知し、品川工場が時代遅れになったこと、新たな展開を必要とするようになってきたこと、しかもそれは急激に進めなければならないものであることが検討され、沖電気の構造改革を一気にやり遂げようという計画になったのだろう。解雇後すぐに品川工

場売却、宮城や宮崎に半導体工場新設となったわけで、当然、指名解雇を含んだ、「ヒト」と「モノ」との総合的なリストラ計画だったのである。

争議解決後だいぶ経って、電機懇のベトナムツアーでハノイの日電の工場を訪ねた。電話交換機をつくっているというので、てっきりクロスバー交換機かと思っていたら、そこも全電子交換機。工場は「流れ」などではなくコンピューターの組み立て工場。基板組み立てのラインはあったが、本体組み立て工場では、何台か置いてある躯体のまわりに労働者が取りついている。機械の動く喧噪もなく実に静かな工場だった。昔の品川とは全く違う。今から振り返ると、沖電気争議の出発点は、このIT化への大きな電機産業の転換と首都東京の海岸部の再開発にあったように思えてならない。品川や芝浦の地に戦前から続く工場は非効率極まりないものであり、早晚撤退が方針となっていたのだろう。したがって、品川・芝浦は希望退職も指名解雇も大量に狙われた。

これは沖を含む財界・資本の長期戦略の意図としてとらえられることのような気がする。

2. 沖電気の大量指名解雇は、「成長産業・戦略産業の電機の中で大量の指名解雇復活」と労働界、社会を震撼させた。「三井三池以来」とも言われたが、産業基盤の大きな転換のなかでという点では三池とも共通する。もう一つ、総資本と総労働の対立のなかでは、「指名解雇」の手法が、資本に都合のよい労働力調節弁として機能するのかどうかの試験台的意味をもたされたのではなからうか。比較的、労務管理に甘かった沖電気、労組は企業内組合、しかも当時の民間企業の日本的労働組合の中核に位置する電機労連の中堅組合の一つ。ここで「指名解雇が成功するならば」と、固唾をのんでみていた経営者は少なくはなかったであろう。であるからこそ、8年有余の沖電気争議の意味は大きい。「許すな！沖電気の指名解雇」を北海道から沖縄まで全国に広げ、年々支援の輪が拡大するなかでたたかうことができた。裁判の場では、整理解雇の4要件の一つも満たしていないことを真正面に掲げ、指名解雇の無効を叫び続け、和解とはいえ、裁判を通して解雇撤回を勝ちとった。そこまで全国規模で争議を広げたことは、資本にとつ

ては、指名解雇復活を簡単にはできないことを思い知ることになったろう。もしも『伝家の宝刀』としての指名解雇を強行するならば、大きなしっぺ返しを受けることを沖電気争議は知らしめた。

決してそれで「指名解雇」＝「整理解雇」を完全に「死語」として葬り去ることができたわけではないが、当時、判例としてつくられてきた「整理解雇の4要件」を捻じ曲げる動きが濃厚だったときだけに「4要件」を守った上での解決の意味は小さくないと思う。その後続く国鉄や、日航などの人員整理、たまたか労働組合つぶしがより巧妙に行われてきたことは言うまでもないが、沖電気争議が、我が国の労使関係の歴史にひとつの大きな足跡となったことは言を俟たない。

資本はさらに巧妙なやり方で、それまでの終身雇用制や年功序列をやめ、正社員を減らし、分社化し、派遣社員や非正規雇用を拡大し、成果主義賃金を生み出し、労働者を分断して、いまのような状況をつくってきた。資本が追い出したい勢力が抵抗の力を持っている限りは、さまざまな差別や嫌がらせをしながらも、自然死、安楽死を待つ方策に変えてきている。これは、沖電気争議の勝利と、たまたかわない労働組合のなかでも必死に抵抗し続け、「少数」といっても闘う労働者の集団が生き続けてきた結果であろう。そして多数派組合が組織する正規労働者がそれぞれの企業でも大幅に減少していく中では、電機・情報ユニオンをはじめ、個人加盟の新しい労働組合の活動と組織が発展する客観的条件も生まれてきているのだと思う。

共に沖電気指名解雇争議をたたかった「争議団家族」のなかから、労働組合運動の新しい組織化の先頭に立つ活動家を少なからず生み出し、沖の職場に戻った「家族」が、沖電気の中で不屈に果敢に沖電気の労働者全体の権利と利益のためのたたかい続けてきたことは我々の誇りである。沖電気争議の歴史的意義をしっかりとその後を引き継ぎ、生かしたものであり、全国的な支援でたたかった沖電気争議の生み出した財産でもあると思う。

《集会へのメッセージ》

☆みなさんと会える日を楽しみにしております。

[☆市川美佐子]

☆争議が終って25年、いまだに行商の夢を見ます。しばらく、はまったアイドル熱も、今ではすっかり冷め残ったのは山ほどのグッズとビデオ。本業のかたわら始めた老人介護の仕事も今年で4年目、ゆくゆくは介護福祉士の資格に挑戦したいと思っています。当日は夜勤のため参加できません。

[☆八島崇好]

☆もう四半世紀ですね。早いものです。今はシニア(再雇用)で働いています。当日は予定を入れてありましたので申し訳ありません。

[☆岡田道春]

いつも、ニュースをありがとうございます。顔を思い浮かべながら読んでいます。また、時には新聞掲載記事などでもお見かけしますので、ご活躍を喜んでおります。私の日常は、持病の病院通いもありますが、それ以外は元気にすごしております。独居老人にはなりましたが集会には今回は不参加とさせていただきます。皆様のご健康と、集会のご成功をお祈り申し上げます。

[☆和田正]

☆昨年三月定年退職して現在充電中です。皆さんに、会えるのを楽しみにしています。

[☆福本均]

父は元気です。アイおばあちゃん(元争議団員の故中村光子さんの実母井元アイさんのこと)は、認知症です。

[中村健一]

原発はいらない。ノーモアフクシマ 3・11

[☆須田孝夫、福島県在住]

☆相変わらず、議会や生活相談活動などに追われています。

[竹本誠、元沖電気、高崎市議]

☆父親の緊急入院で、3月から度々北海道一東京の往復です。皆さんによろしくお伝え下さい。〔橋本良仁、元沖電気、高尾山天狗裁判事務局長〕

☆健康にも恵まれ、日夜赤旗出張所の仕事に励んでいます。

[佐藤敦之、元沖電気]

☆親戚の納骨一周忌の法要と重なり残念ですが参加できません。皆々様の増々の発展とご健康を祈念致します。

[佐藤光年、元沖電気]

☆時は速いものですね！小生は、今地域の「社会福祉協議会」の会長で頑張っています。どうも地域の人達は遊ばしてくれないので困っています。80歳の太台に達しました。皆さんも元気で…。出席できないのが残念です。

[植松孝、元沖電気労組品川支部長]

☆解決から25年も経ちましたか！早いものですね。世の中も大きく変わり、私、65歳になった今も働いています。雇用延長で生活の事、健康の事、人生の楽しみ、考える事の多い近年です。

[岡村朝江、元沖電気]

☆ご招待いただき有難うございます。当日は諸用が重なり参加できません。皆様のお幸せとご健康をいつも祈っています。昭和43年沖電気芝浦入社です。

[中島静恵、元沖電気]

☆リーマンショックの後、中小企業の経営に苦慮しています。

[北垣克巳、元沖電気]

25周年記念の集いに寄せられた —ご支援頂いたみなさんからのメッセージ—

☆ご案内ありがとうございます。25年という長いなか、各界、地域で新たな闘いに参加しているみなさんに敬意を表します。沖電気争議の闘いは今も、様々な闘いに生きています。現在、非核の政府を求める埼玉の会事務局にいます。

[児玉捷之元JMIUワラトク、埼玉県労働委員]

☆国立に転居をし、さっそく案内をいただき、また仲間と会えること、そして元気に旧交を暖める事を喜び合いたいと思います。日本の労働運動の一つの金字塔を確認しましょう。

[小倉康次]

☆労働運動史上、画期的な勝利から25年も経ったんですね。みなさん、各々に経験を生かした部署で活躍されているのは、大いなる喜びですね。当方も25年達って老人の部類です。

[高橋健一、元日本共産党港地区委員長]

☆もう4半世紀たつんですね！私が50歳の時とは思えません。その後も労働者いじめの政治が続いていますが、沖勝利を力に頑張らねばと思う今日この頃です。

[川崎悦朗、元NEC、電機情報ユニオン]

☆沖争議勝利25周年の集い、ご案内頂き大変うれしく4半世紀前を思い浮かべ感慨一入です。沖電、日立、東電など当時の熾烈な「差別」との闘いでしたが今日の派遣労働者などの「差別」はまさにさきがけの闘いといえる貴重な歴史的偉業といえます。共闘事務局長の井川昌之さんとは、電力争議での闘いで、職場の自由を守る闘いと一体として、人権争議としての国連活動、その背景であった

原発の危険告発の闘いなど、今日なお重要な課題を先見的に闘ったことの自負を持っています。明日の元気につなげたいものです。病床にあり残念です。

[岡村不二夫元東電争議支援共闘]

☆建交労による指名解雇から三年。みなさんの力で勝利解決し職場を得、組合籍も確保しました。沖電気の仲間を支えられました。

[鈴木信幸、元東京電力争議団事務局]

☆今日までは、とても元気に生きてきました。でも、明日の生命が分からない年齢の76歳になりました。願わくは「50周年記念」にもと思います。

[土井清、元日本航空労組]

☆松謙さんからメールで案内いただきました。早いものですね。3月3日、北村さん、中山さんにもお会いしましたが、新宿の屋代さんもがんばっておられますね。ユニオン結成以来、米田さんともいろんなところでお会いしますね。みなさんとお会いできるのを楽しみにしています。

[西村直樹、金属労働研究所]

☆皆さんとお逢いできることを楽しみにしております。会社勤めと、妻の介護に忙しい日々を送っています。

[小野俊三、元JMIUワラトクスチール]

☆私も昨年11月に倒れ爆弾（大動脈解離）をかかえてしまいました。自爆しないように、血压管理に努めています。それでも東京には週1回位は出かけようと徐々に動いています。渡辺清ちゃんの胃がんの手術が心配です。

[清水滯、元細川活版労組]

☆弟の世話になっています。病院通い2か所。一人歩きは禁止されています。週2回デイホームに通所（送迎付き）週2回、介護のヘルパーさんが来て下さいます。相原さん、東田さんお世話になりました。お元気ですか。祝「集い」開催！ 堀江は目を悪くしています。

[佐藤桂、元IBM労組]

☆みなさまにお逢いしたいです。4月22日はどうしても都合がつきません。とてもとても残念です。

[関町好子]

☆争議解決から25年も過ぎたことを知り、若い頃を思い出します。あの頃は、田中さん、田上さんの解雇もありこの中で青春の1ページを過ごしたことを誇りにしています。

[市毛一実、元富士電機、電機情報ユニオン]

☆沖電気の闘いは今も私を勇気づけてくれます。

[森住卓、フォトジャーナリスト]

☆残念ながらすでに予定が入っており、参加できません。就労請求権を前面に押し出して闘った真喜志さん裁判は私にとっても大変勉強になりました。

[福地輝久埼玉弁護士]

☆もう20年ですか。時の流れは速いですね。皆様にお会いしたいのですが、都合がつかず残念です。盛会を祈念しています。

[大久保賢一、弁護士]

☆日立争議後12年。日立を退職して10年たちました。福島原発事故を大変心配しています。

[荒川照明、日立茨木提訴団]

☆私は「世界と日本のエネルギー労働者と連帯する会」の総会で名古屋に行っています。原発公害で電力総連も一人一人の組合員が自分で考え判断するしか展望は開けない状況にきています。電機連合も、情報労連の労働者

も同じと思います。私共、弱小ではありますが、続けてきて良かったと思います。これからも皆様のご健闘に期待します。

[村石政弘、東電原告団]

☆多病息災で頑張っています。やっと皆さんと顔を合わせる機会が持て、今からワクワクしています。あの頃ビールびんの蓋を集めて遊んでいたお子さんたちも立派に成人していることでしょう。

[堀江勲、元IBM労組]

☆誠に残念ですが当日、文化センターで行事があり参加できません。労働者の尊厳を守り抜いた闘いに感謝します。99%のための社会をめざして力をつくしたいと思います。今、練馬区選挙管理委員をしている関係で忙しくしています。

[矢沢重光、元沖電気、日本共産党練馬区議]

☆ご案内ありがとうございました。あれから25年になるのですね。私も退職して10年が経ちました。近くの特養ホームで認知症の方の傾聴ボランティアを、週に1回。9年目を迎えます。働き盛りだった皆さんも定年を迎えられていますね。お目にかかれるのを楽しみにしています。

[大竹公子、元労働金庫]



毎月行った本社前行動。これが第1回目。

☆佐藤は旅行中です。皆様の健康と楽しい集いになりますよう祈念いたしております。

[佐藤一夫代筆]

☆自由法曹団支部総会と重なるため出席できません。ご盛会を。

[佐々木新一、弁護士]

☆25周年おめでとうございます。みなさまのなつかしいお顔にお目にかかれることを楽しみにしています。

[玄間太郎、新聞「赤旗」記者]

☆千代田区労協・千代田総行動の時代とは様変わりましたが、この争議の経験を継承すべき時だと思えます。政暴法デモ事件でお世話になった夫も参加します。

[武藤ヒサ子、千代田区労協]

☆今は年金者組合で忙しい思いをしています。25周年、早いですね！

[清水勝之、社会保険診療基金]

☆不当な攻撃には闘うということが、労働者・労働組合にとって当然のことであった時代の闘いの金字塔です。外部にいる私たち労働組合としての支援活動にも”勝たせなければならぬ”という意気込みがあった。あらゆる格差と闘う労働者の組織と運動の構築が切に望まれます。

[原康長、全労金]

☆すっかり老けこんでしまいました。皆さんによろしくお伝え下さい。

[堀哲郎弁護士]

☆さいたま市役所を退職後、革新懇運動を始め、昨年10月1日に鴻巣革新懇を結成しました。この運動は生涯の友となりそうです。

[鈴木清史、元浦和地区労議長]

☆長い間の友情と連帯に敬意を申し上げます。大災害から日本人の新たな力が求められ、必要な時代に力を出したいものですね。

[山本武司、元日本フィル労組]

☆ご無沙汰しております。定年後無職を通しており、ハローワークへ足をはこび以外は家にいます。冲争議の功績で電機懇・ユニオンで活動しております。

[橋場伸一、元NEC]

☆ごぶさたしています。私は今年76歳まだ、弁護士を南北法律事務所ですんでいます。弁護士51年となりました。今、戦争中全国の炭坑や工場に強制連行収容、強制労働被害者4万人の弁護団で16年、被害、謝罪、損害補償に取組み時に中国に通っています。争議中に育った娘が今、自由法曹団の弁護士になりました。

[高橋融弁護士]

☆92年の岩通のリストウ問題が発生した時、当時電機懇事務局長の中山さんが激励に来られた時から電機懇活動に関心を持ち現在に至っています。「独占資本はもっと、社会的責任をはたせ」

[高田勝善、元岩通、電機懇東京支部長]

☆情報をつたえることが、社会を変える大きな力になります。臨海部開発問題を考える都民連絡会の臨海かわら版(月刊)と江東健康友の会機関紙「けんこう(月刊)3000部」の発行を続けています。

[矢野政昭、元都職労港湾支部]

☆みなさんお元気ですか！もう冲電気争議も解決して25年にもなりますか。キャンプの山びこ・本庄まつりなど、なつかしく思い出します。あいにく組合の会議で参加できません。みなさんによろしく！！

[江畑秀治、JMIU北村バルブ]

☆皆さんお元気ですか。もう25年も経ったのかと感無量です。あれから25年この社会はあらたな矛盾がいっそう深刻になりました。生きている限りお互いにまだまだ頑張りましょう。

[板倉博、元東大生研]

☆妻が暖かい地に住みたいと3年半前に伊東市へ。ところが雪は降るし寒い地です。後援会ニュース作り「ニコニコうたう会」を3年。うたごえ喫茶「高原のともしび」を始めて2年余。「待ち遠しい」と喜ばれています。争議中の経験やずうずうしさが役立っています。

[田中秀幸、元日立争議団]

☆「沖電気争議25周年の集い」の案内状を頂き、有難うございました。指名解雇を許さない闘いはその後に活かされて来ています。解決の成果で結成された電機懇も今年には第25回総会を迎えるまでになってきました。今後とも電機懇発展の為、ご支援ご協力をお願いします。 [谷口利男、電機懇事務局長]

☆先日は「沖電気争議解決25周年の集い」の案内状をありがとうございます。もう25年も経過したのですね！改めて 時の流れの速さに驚いています。私は定年退職して3年が経ちます。」退職後、心臓弁膜症の手術をしましたがそれなりに元気に過ごしています。群馬県神流町にある古民家と東京を行ったり来たりしています。近くを流れる川（神流川）は水質が関東一とのこと、きれいな川です。機会があったら遊びに来て下さい。せっかくの機会ですがすでに予定が入っていて変更できないため、残念ですが欠席させていただきます。皆さんに宜しくお伝え下さい。

[西村美保子、元NEC]

☆前略、例年ならさくらの季節なのにまだ東京ではつぼみも見かけないくらい、寒い日が続いていますがお元気でお過ごしですか。4月22日の「沖電気争議解決25周年の集い」出席させていただきます。これからは、自分の時間が持てるようになりましたのでいろいろなことに興味を持って生活していきたいと思えます。 [加茂和子、ルポ研究会]

☆毎日元気で過ごしていますが、なにかキッカケがあればこの住みにくい日本を捨て、海外で生活しようと思っています。

[遠藤修、元東京争議団事務局長]

☆誠に申し訳ありません。組合の会議と重なり出席できません。キャンプ・まつり・集会・門前宣伝等々、沖の仲間のたたかいは私達にとっても大切な思い出の1ページです。

[布施勝次、埼玉土建]

☆85～86年私たちも首を切られ、沖電気や池貝のみなさんと一緒にたたかい、一足先に職場にもどりました。しかし、92年、倒産でまた争議になり5年前にやっと終わりました。もう傘寿目前です。

[藤井将貴、目黒電波]

☆連絡ありがとうございます。本人はとっても行きたいらしく、一人でもいくといっていました。やっぱり一人では行けないようです。目が悪いのですが文筆活動はしています。

[浅野敏行夫人、元国労]

☆もう四半世紀たったのですね。あのあとJMIUをつくり、60代も一介のオルグとして努力してきたつもりですが、いまの労働運動、労働者の状態には忸怩たる思いです。

[下村三郎、JMIU元副委員長]

☆昨年から法制審議会、新時代の刑事司法制



各地で創意ある行動が展開された。東京工場包囲デモでは残業している労働者から激励も。

度特別部会の委員を務めています。昨年、ようやく再審無罪が確定した布川事件での教訓を生かしたいと思っています。前からの予定があり残念ながら参加できません。

[青木和子弁護士]

☆昨年の3・11の震災では当地域も大きな被害がありました。私自身は不幸中の幸いといいますが、特になにもありませんでしたが。

[島田健治、キンセキ舎労組]

☆ご招待いただき有難うございます。当日は諸用が重なり参加できません。皆様のお幸せとご健康をいつも祈っています。昭和43年沖電気芝浦入社です。[中島静恵、元沖電気]

☆25周年おめでとうございます。ヤーマン労組は、少し早く会社を離れることになりましたが、3人共元気です。皆さんに会えば一気に4半世紀前に戻りそうです。日本も大変なときですがお互いのできることから頑張りましょう。

[吉田由布子、元ヤーマン労組]

☆今年4月で73歳になります。葛飾の地域で頑張っています。

[藤井正弘]

☆早期退職し一昨年夫が亡くなりました。一人と一匹、朝夕1万歩の散歩に励んでいます。

[仏常志津子、ニチモウキグナス]

☆埼玉県川越市から佐渡市に引っ越し、ふる里の実家を相続し「村おこし」でがんばっております。沖電気争議の闘いで皆さんと連帯でき勝利解決したこと、つい先日の様に思い出されます。皆さんの闘いの教訓を今「村おこし」で活用させてもらっています。

[清田恵、山村学園]

☆ご案内ありがとうございます。懐かしさとともに、もうそんなに経ったのかという感慨があります。私などが参加していいものか躊躇もありますが、少しだけ顔を出させて頂き

ます。

[斉藤二三男]

☆争議解決25周年おめでとうございます。定年後は地域労連の事務局、埼労連労働相談員などで労働運動のお手伝いをし、現在は年金者組合だけです。

[飯野豊秋、元東電争議団]

☆沖電気争議解決25周年おめでとうございます。職場復帰後25年にわたる活動の成果をいかし、更なる発展を期待しています。争議解決と同時期にはじまったJR採用差別問題も25年の月日を経て解決しました。今後とも皆さんとともに職場に根を張ってがんばります。

[矢部雄一、国労]

☆ご案内ありがとうございます。当日は日本美術会の会議と重なってしまい参加出来ず失礼いたします。私が都教組の情宣部長の時、沖電気争議に接し、たたかひの意義や姿、人としての生き方まで、深く知らされたことを思い出します。その思いは、私の絵の深いところでつながっております。

まだまだたたかひは続きますが、元気を出してがんばりましょう。

[百瀬邦孝、元都教祖情宣部長]

☆「25年の集い」にお誘いいただきましてありがとうございます。残念ながら3月初めより入院しており参加できませんので関係者の皆様によりしくお伝え下さいませ。ご盛会を祈念しております。

[藤井利巳代筆、日本電波ニュース]

☆沖争議の伝統がOAKの闘いに引き継がれていることに敬意を表します。今後も電機懇とユニオンへのご支援をお願いします。

[今井節生、電機懇代表]

☆沖電気争議と言えば、電機産業各社の争議団が共闘して取り組んだ電機総行動でその中心を担い、争議解決後は電機労働者懇談会の設立とその後の活動に果たした役割は計り知

れない。愛知在住の私は、争議中の沖電気争議団とその家族の困難な闘いを直接には知らない。むしろ毎年の電機懇総会の中で元沖電気争議団の仲間が職場要求実現に向けて献身的に活動する姿を通して、多くを学び励まされて来ました。争議解決から四半世紀の今日に至るまで、電機の職場を励まし続けた活動に心から敬意と感謝の気持ちを送りたいと思います。

[黍原和雄、日立オムロン、愛知電機懇]

☆冲争議の皆さまへ、25年もの間本当にお疲れ様でした。社会のヒズミの最前線で闘ってこられた皆様の奮闘に、心から花束を贈ります。どんなに厳しいときでも、仲間と助け合う冲争議団の姿は、計り知れない勇気と希望を日本中に伝えてきました。その姿をルポ研の一人として書かせてもらったことは、私にとって何にもかえがたい宝となっています。昨年3・11から被災地に毎月入り、復興の取組みを観てルポにしていますが、ここでも助け合いがポイントになることでしょう。こうして同じ時代をこれからも共に歩むことを誓い、私からのお祝いの言葉にさせていただきます。ありがとうございました。

[西村一郎、ルポ研究会]

☆冲争議団の皆様。あの冲争議解決からもう25年がたつのですね。私が現代ルポルタージュ研究会に参加し、冲争議について知ったのは、解決も間近という時でしたが、最後の最後まで「人間らしく生きたい」という高い志と連帯の力粘り強く解雇撤回・職場復帰を求め続ける争議団の生き方に強い衝撃を受けたものでした。そして、何より感動したのは、職場に戻ってからの戦いでした。戻って終わりではなく、「何を見つめて飛ぶのか」と問い続け、「誰もが人間らしく働ける職場に変えていく」という、さらに困難な闘いに果敢に立ち向かっていきました。いま、派遣労働者とも、企業の枠を超えて横断的に連帯し、共に「人間らしく生きる・働く」社会づくりに向けて、冲争議団で粘り強く闘った皆さん

が全国各地で大きなうねりを起こしつつあります。これは冲争議の成果以外の何物でもありません。東日本大震災からの復興など、日本はいま、大きな転換点を迎えています。とりわけ、若者が将来に希望の持てる社会をいかに作っていくのか、次代に何を託していくのか。冲争議解決25周年を一つの節目として、また新たな地歩を築いていかれることを、心より期待しております。

2012年3月9日 [小川緑、ルポ研究会]

☆集いのご案内ありがとうございます。あれから4半世紀が経ったのですね。私にとって、沖電気の闘争はルポルタージュの修行の場であり、労働争議のなかの自治、連帯の中で育つ労働者を学ぶ場でもありました。争議解決後は、さまざまな分野で争議団メンバーが活躍され、職場へ戻った方々はなお厳しい職場の中で職場を明るくする闘いを続けられている・・・ほんとうに、すばらしい仲間達です。その日は福祉国家研究会の講演会があり、わが師渡辺治先生と二宮厚美先生の講演会があり受付の役目があります。なんとか調整した

たたかいの ルポルタージュ

No. 8 1987

特集 人間らしく働き生きる 先端産業・沖電気争議を通して考える

- あした高らかに笑いたい……………小松みゆき
- ひとつの輪……………西村 一郎
- “次工程は仲間。を求めつづけて……………松沢 常夫
- 朝 ビラまき……………大塚美代子
- 20代は争議で終わったけれど……………加藤 和子
- “狂い咲いた。五味ちゃん……………津村 正
- 職場に夢がありますか……………川原 薫
- ハイテク戦線NOW……………河合 真
- 片道切符の去向……………世 肇
- 箒のうた「只今 清掃中」……………中野 エミ
- つくるお私の人生
山の中のゆっくりじっくり保育園で……………藤田 麻子
- 新たな出発への思いをこめて……………今野 晴巳

現代ルポルタージュ研究会



かったのですが、ほかにも会があるらしく、人手不足のためうまくいきませんでした。残念ですが欠席させて下さい。盛会をお祈りしています。 [上田裕子、ルポ研究会]

☆ご無沙汰しております。元争議団の皆さんは、おげんきでしょうか。3月3日の「金属労働者の集い」でお見かけしましたが、声もかけずに大変失礼しました。争議解決からもう25年も経ったのですね。元争議団の皆さんには、ぜひお会いしたかったのですが、所用のため参加することができません。大変残念です。またの機会にお会いできることを楽しみにしています。いま私は茨城県行方市にある池貝の職場で元気に働いています60歳の定年を過ぎてしまいましたが、再雇用（期間契約の社員）として勤めています。池貝の指名解雇事件が起きてから、来年で30年になります。何かできないかと相談しているところです。「沖電気争議解決25周年の集い」が盛大に行われるよう祈念しています。

[小川隆、池貝争議団]

☆昨年地震時転倒し外傷性脳出血と肋骨を骨折し今は杖を必要とする生活ですが、年内には杖なしで駅前まで歩ける様週2回のリハビリに励んでいます。 [小島喜代子、故小島宏沖電気の仲間を支援する会事務局長夫人]

☆小生現在ノーモアミナマタ東京支援連事務局に入っており、4月22日～23日、患者会の福島激励行動が入っており残念ですが参加できません。盛会をいのります。みなさんによろしく。 [土田尚義、品川区労協]

☆出席できず申し訳ありません。私たちの労組、東京水道労働組合で貴団体争議の折五味田さんにお世話になりました。その折中執の一員で親しくしていただきました。今も退職者連絡会で東水労とつながっております。解決後25年間も絶えまないみなさんの連帯に大きな拍手をお届けいたします。

[小野田進一、東水労]

☆移転問題で揺れる高尾は毎週のように新しい動きがあり、契約社員、派遣社員の出入りも激しくなっています。売却予定の跡地は、深く汚染土を掘っています。

[長居煎、多摩沖]

☆集いのご案内をいただきなつかしい皆様のことを思い出しているところです。なんとか出席しようと考えていたのですが、4月の日程は「きびしく都合をつけることができませんでした。皆様のご健勝を心からお祈りいたします。

[喜納幸男、元港区労協専従]

☆沖電気の闘いは私たち電機労働者の誇りです。 [井坂正敏、電機情報ユニオン執行委員]

☆CSも争議解決から来年で30周年になりますが、2008年から、グループ会社のパワハラ問題をきっかけに、会社の不当労働行為とたたかっています。こうした会社の対応の中で

C&Sは新宿から新浦安に会社ごと「配転」となっています。

現在東京争議団共闘に加盟し、現在副議長を務めています。

[伊藤之知、C & S 労組]

☆解決25周年おめでとうございます。みなさんの姿に励まされ小生も職場復帰30周年になりました。現在も関連会社で働いています。先約の調整がつかず参加できませんが悪しからずご了承下さい。盛会をお祝い申し上げます。 [泉克廣、東洋電機]

☆もう25年ですか？早いものですネエ～。私も本年70歳。本人がおどろいています。ゴルフ、スキー南太平洋の島と趣味を満喫しています。 [山田晃一、報知印刷労組]

☆本当に嬉しいご案内をいただき感謝しています。皆さんの闘いにあらためて深い敬意を

表します。闘いのはじめの頃、上田耕一郎さんと相談して、共産党としての支援の態度や方針を検討したことや井川さん、中山さんと協議したことが昨日のように思い出されます。統一労組懇との関係をめぐって中山さんと徹夜の論議をしたこともなつかしい思い出です。喜んで参加したいのは、やまやまですが残念ながら当日は旅行中で参加できません。「集い」の盛会と皆さんのご健勝を心から願っています。私も84歳になりましたが、まだなんとか無事に独りで生活しており、近く63年前に起きた三鷹事件についての本を出版する予定です。

[梁田政方、共産党都委員会]

☆埼玉合唱団は昨年、創立50周年を迎え、今年7月28日(土)には、埼玉会館大ホールに韓国より「平和の木合唱団」を迎えて『歓喜の翼コンサート』を成功させようと準備中です。韓半島の平和の祈りを『第九』の演奏に込めて。どうぞ皆様ご来場下さい。

[小山真理子、埼玉合唱団]

☆あれから四半世紀ですね。私は労働組合のある職場の働きやすさを感じつつ再雇用で働いています。ただ、年々組合員が少なくなるのは残念ですが。 [田村啓子、中央区労協]

☆返信が遅くなり申しわけありません。日本火災支部組合書記局に勤務されていた佐々木典子さんをお誘いして伺わせていただきます。よろしくお願いいたします。

[小島和代、小島御楯さん夫人]

☆大分体力的にきびしくなって来ましたがまだ、元気に張り切っています。今の野田政権では世の中さらにきびしく大変になるでしょう。これからも皆さんと共に頑張りたいと思います。よろしく。

[西川信夫、元東水労]

25周年の集いおめでとうございます。沖の争議の解決の闘いは歴史的教訓をつくりあげたと思います。電機・情報ユニオンの活動に発展させましょう。

[松本満男、電機ユニオン]

☆68歳まだ現職で全港湾東京支部の委員長として元気に頑張っています。沖の仲間との再会楽しみにしています。

[都沢秀征、全港湾東京]

☆沖電気25周年の集いに参加します。早いものですね、楽しみにしています。

[吉成義隆、NEC]

☆沖電気争議の闘争と勝利は、電機で働く労働者と活動家の雇用を守る防波堤になりました。沖電気での歴史的なたたかいは、電機懇・電機・情報ユニオンに引き継がれ多くの活動家の胸に今日も生きています。

[森英一、NEC]

☆当時、未だ新人弁護士として弁護団に参加させてもらいましたが、私もまもなく弁護士年数も35年近くになろうとしています。当時の争議団の皆さんの熱気は未だに印象に残っています。

[梶山敏雄、弁護士]

☆92年の岩通のリストラ問題が発生した時、



電機労働者は電機総行動を作り出すなど全力で闘った。

当時電機懇事務局長の中山さんが激励に来られた時から電機懇活動に関心を持ち現在に至っています。「独占資本はもっと、社会的責任をはたせ」

[高田勝善、電機懇東京支部長]

☆情報をつたえることが、社会を変える大きな力になります。臨海部開発問題を考える都民連絡会の臨海かわら版（月刊）と江東健康友の会機関紙「けんこう（月刊）3000部」の発行を続けています。

[矢野政昭]

☆当日は中学校の同窓会が以前より決まっていますので欠席いたします。

[酒井修、全損保東京海上]

☆東証にまだいます。 [平野千代子、東証]

☆争議団の仲間と共に鍛えられ成長し、連合傘下の民間大経営労組で20年間に亘って委員長を務めました。今は、全日本年金者組合熊谷支部の副支部長を微力ながら頑張っています。 [星野章、元三菱電線労組]

亡くなった争議団の仲間たち4人

伊藤善正さん 享年64歳



1984年8月3日 心筋梗塞で逝去。

沖電気争議団のバックボーン 良心守り労働運動一筋 (愛称 善正さん) 証券、損保など東京・中央区内の組合

を一軒、一軒粘り強く 支援を訴えて歩いた。

沖電気争議団を訪れた人々の多くから「争議団で一番魅力的な人」と評された。争議解決を知らずに亡くなった。亡くなる2日前の暑い日、伊藤さんは、財布から1万円を取り出して、「アイスクリーム」を争議団員にごちそうした。

松本和子さん 享年54歳



2000年3月6日 癌で逝去。

夫婦共に指名解雇された相原さん、東田さんの3組の1組。

チャキチャキの江戸っ子、単刀直入なもの言いなど率直で、爽やかな人柄。

2人の子育てをしながら奮闘。東京・目黒区を担当。夫(謙司さん)の復職先が埼玉・本庄工場になったので熊谷市に転居。

92年から弱音を吐かずに8年の闘病生活。

植樹葬を真似て熊谷の荒川堤に、仲間が桜(普賢象・八重)を植えた。

中村光子さん 享年50歳



1996年12月3日 癌で逝去。

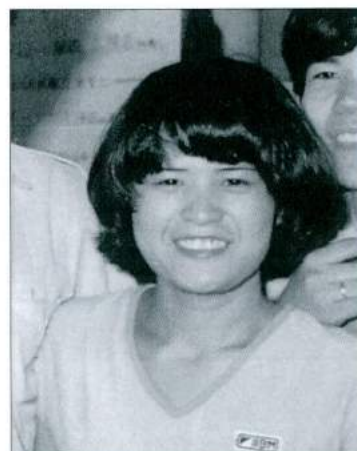
集会の司会にはこの人、働く婦人の権利のために尽力 (愛称 おイモちゃん)

主に東京・千代田区を担当したが、支援要請で全国へ行くことも

多かった。お母さん(井元あいさん)も、争議支援集会、争議団の家族会などに積極的に参加、家族ぐるみで懸命な闘いを行った。

復職先が、八王子工場になったので東京都・大田区からの遠距離通勤と慣れない業務との闘いも併せて行う。争議団OB会で沖縄に行き散骨した。

飯田喜久枝さん 享年52歳



2009年4月29日 癌 52歳

喜久枝さん(旧姓 大塚)は1982年(25歳)、団員の飯田 康男さん(32歳)と結婚(団員14人目)。2人3脚の争議になった。(愛称 つかちゃん)

主に東京・千代田

区を担当。夫婦で北海道オルグなどへも行った。

声は小さくて控えめだったが、意志は強い人だった。

夫婦ともに復職せず、下町(江戸川区)に居をかまえ社会進歩のための活動をしていた。争議後は、新婦人活動などで活躍した。

墓碑銘に代えて㊦ 支援共闘会議議長 倉持米一さん

中小企業の労働運動と 労働争議に生涯をかけて

支援共闘会議議長の倉持米一全国一般東京地方本部委員長は、とても頼りになる人だった。とりわけ沖電気争議団員のように労働組合運動の経験の少ない者たちにとっては何でも分かっている人と言う信頼感があった。共闘会議結成後、争議団で学習会を持った。倉持さんは1時間半立ったままで滔々と話し続けた。闘う相手の分析は分かりやすく、持論である「争議は経済闘争から社会問題化し、政治問題となった時に勝利する」で争議団員を魅了した。

演説原稿を作る過程でも多くの人たちに調査を依頼し、報告を聞いている。そのための努力を惜しまない人だった。

無類の話し好き、労働者も闘いも好き

無類の話し好き、演説好きだった。だから東京都体育館で共闘会議結成記念「文化の夕べ」で倉持さんの持ち時間を3分と決めたものの、それを伝えるに行く人がいなかった。仕方がなく当事者が、と言うことで私が行った。そのお願いに対する倉持さんの回答は、断固としたものだった「沖電気争議を3分で話せる人がいれば、その人に議長を頼めばいい、俺は降りる」

とこちらの話しには一切耳を貸さなかった。数日後千葉県我孫子の自宅を訪ねた。ちょうど奥様もおられた。恐る恐る3分間の話を持ち出すと、案に相違して「先週原稿を作って、これにも聞かせたところだ、いいという

ことだった」と破顔一笑された。その後、大勢の前で話すときは原稿を書くこと、原稿は目線が動かなくて済むよう横書きにすることなど懇切に教示を受けた。

和解による解決を提起。勝利を確信し急逝

倉持さんが争議の解決を確信し、和解による解決を提起したのは裁判の進行と、それまで拒否し続けてきた、通産省が面会に応じた事が直接的な契機になったと思う。倉持さんと面談した産業機械情報局の電子機器課長は「沖電気を呼んで事情を聞きましょう」と明快に約束した。まさに政治に手が届いた、争議の方程式が解けた瞬間であった。その時倉持さんは「君たちが頑張った結果だ」と言った。厳しく指導されたが、闘う者には優しい人だった。

その後裁判所が和解を提案するという情報を伝えた時、倉持さんは「そうだろう」と喜んだ後、「今後は君たちの団結が問われる事になる」と言った。

沖電気争議に係わった頃から、倉持さんは、国労東京の増田副委員長や都職労の大牟礼委員長らと労働組合運動の勉強会を開いておられた。

倉持さんの逝去は突然であった。当日は有楽町の喫茶店で待ちあわせていた。そこへ争議団事務所から「急病で病院に運ばれたが、たった今亡くなった」という知らせがあった。大森の病院に駆けつけて、もう何もしゃべってくれない倉持さんの手を握った。

葬儀の日、自宅から運び出される柩は深紅の組合旗に覆われていた。

沖電気争議は倉持さんの死後3年間続くのだが、後任者を選ぶことはなかった。議長は倉持さん以外になかったし、勝利までの道筋はつけられてあったのだ。一緒に行動していた時も、そして今もなお大きな存在感を持って私の中に生き続けている人である。

1984年2月8日逝去。

(中山森夫、記)



文化の夕べで原稿を手に挨拶される倉持議長。
井川事務局長、増田・安田・大牟礼各副議長と。



墓碑銘に代えて②

ありがとう 小島宏さん

支援する会事務局長 小島 宏さん (東京都労連中央執行委員)



「あるとき、河原で鉄板焼きをやった時のこと、他の争議団は、みんな分担して自発的に協力してやっているのに、沖電気の連中をみると、石を持ってくるやつもいるし、ボヤーとして手伝わないやつもいる・・・手伝えとも言わないし、ボヤーとしているやつは、手伝おうともしない・・・不思議な光景だったんです。入社したときから、流れ作業の中で自分の仕事だけやれば良いということが染み付いていて、仕事なり争議というの、みんなしてやるという僕んたちの考えとは異質な連中だったんです」——沖電気争議団の記録映画「りんごの樹は育つ」で小島さんは語っています。78年の解雇当時、争議団の平均年齢29歳。

多くの先輩たちは、総評も知らないし、労働運動の経験もほとんどない初心(うぶ)な私たちを「赤子の争議団」と揶揄しながらも、育てて、勝利まで導いてくれました。小島宏さんもその一人です。

小島さんは、余り苦言を言う人ではなく、支援する会の事務局次長の私が提案することは、ほとんど「うん、それで良い」でしたが、準備会で用意した「沖電気を指名解雇された労働者と連帯して共にたたかう会」の名称については、労働者はもちろん、主婦や学生などだれでも会員になってもらう大きな運動が

必要だ。5万人ぐらいの会にするために“労働者”と“たたかう”の文言を“仲間”と“支援”に変更して「指名解雇された沖電気の仲間を支援する会」とすることを提案され、さすが「守る会」運動の第一人者と感心しました。

労働運動における「守る会」の多くは一人争議や組合の活動・財政が弱く、自力で闘うことが、困難な争議などに創られていました。しかし、三井三池以来、十数年ぶりの、沖電気の指名解雇は仕事と生きる権利及び民主主義を踏みじめるもので、労働者だけの問題ではない、という考えでした。私は、この基本で支援する会は広がったと思っています。(中略)

千代田区労協の争議対策部長だった調布の小島さんの家には、正月にはたくさんの現役争議団やOBの仲間が集まっていました。

私も小さい子供も連れて毎年行くようになり、お年玉も貰えるので、子供も楽しみでした。正月料理は小島さん自身もつくって、ご馳走でした。昼前から飲んで、食って、疲れたら寝て、目を覚まして晩御飯もいただいて解散というのが通例でした。お酒が好きな小島さんも、よくしゃべり、よく笑い訪れる争議団の連中を励ましていました。

梅沢さん、北村さんや支援する会の全倉運労組の三浦さんなど沖電気争議のメンバーも、加わるなど広がり、この正月行事は小島さんの優しい心が届く忘れがたい思い出です。

(以下略)

(記・1番お世話になった松謙)

記事が3ページになっており、紙面の関係で1ページにまとめました。

指名解雇から勝利解決までの闘争日誌

- 1978 11月20日 指名解雇された日
12月～ 東京地裁、同八王子支部、前橋地裁、浦和地裁熊谷支部の4か所で提訴
- 1979 1月 NHK「ルポルタージュにっぽん」で30分放映
2月 全国オルグ開始
9月 被解雇者71人で沖電気争議団を結成、東京争議団に加盟
11月 1周年集会（日本教育会館、1600人）
- 1980 4月 第1次電機総行動（以降毎年実施）
5月 埼玉集会、日比谷野外音楽堂（5000人）
11月 2周年行動（各工場連鎖抗議集会、山手教会で中央集会など延べ5000人が参加）
- 1981 6月 八王子工場で田中さんが配転拒否を理由に解雇。
中山代表沖電気の株主総会で発言
9月 東京工場の浅利正さん、中山洋子さん仕事差別で東京都労働委員会へ提訴。
10月 3周年中央集会（日比谷野外音楽堂 5000人）、高崎集会（1000人）
11月 本社前座り込み。
- 1982 4月 社長宅への要請行動
3月～6月 富士銀行各支店への要請行動
11月 中央支援共闘会議結成（東京都体育会館、8000人）、八王子集会
- 1983 4月 東京工場包囲デモ（1600人）
9月 富士銀行への要請行動（3500人）
11月 埼玉支援共闘会議結成
- 1984 2月 21団体が連続して本社抗議。中央共闘会議倉持議長死去。
3月 コンピュータ・情報化社会を考えるシンポジウム。
5月 東京地裁で和解交渉開始。
8月 原告の伊藤善正さん急逝（享年64歳）
11月 争議解決をめざす沖電気総行動
12月 浅利・中山仕事差別事件が解決、元の仕事に。
- 1985 2月 全国からの個人署名40万人分を提出
6月 第10回和解交渉で会社が「復職なし、解決金1人1000万円」を提示。
9月 埼玉県本庄市で「ふれあいまつり」（8500人）
11月 沖電気総行動
12月 第13回和解交渉で、裁判所が「35人を職場に復帰させる」という和解の基本案を示す。
- 1986 2月から4月 勝利をめざす連続行動。（延べ10500人が参加）
8月 第18回和解交渉で、会社が35人の復職を受け入れると表明。
11月 勝利をめざす中央集会。
- 1987 2月 裁判所和解案を提示。
3月13日、原告、会社双方が和解案受け入れを表明、争議解決。

「OAK発足からの闘い——がんばりの簡略史

1986年 OAK（沖電気の職場を明るくする会）発足、会紙「あすなる1号」発行

☆ 和解協定完全履行を要求、職場十部に耐えた時期

1987年 沖電気指名解雇撤回闘争勝利の和解・35人が職場復帰。

職場十分、隔離、差別攻撃に対する運動を余儀なくさせられる。

1989年 フレックスタイム制導入 連合、全労連発足

1990年 労組、定期大会の傍聴などOAKの排除を強める。八王子U棟環境アセス問題

☆ 仕事差別などを勝ち取り職場に定着を目指す時期

1991年 熊谷地裁に真喜志晃 人権裁判を訴える。グラフ「こんにちは」などで報道
企業ぐるみ選挙やめよと、八王子工場に申し入れ。

1992年 リストラ92計画・2000人削減。真喜志人権裁判仮処分で勝利。
防衛庁の調達で不正が発覚。復職者の代理人交渉打ち切る（5年間）

1993年 早期退職優遇制度導入。真喜志人権裁判勝利和解→真喜志効果で是正が始まる。
生理休暇の保証がゼロに。退職優遇制度導入 「合理化」反対の本庄地域闘争

1994年 沖電気14年ぶり無配

☆ 仕事差別を是正させて職場労働者との融和が始まった時期

1995年 ISO9000シリーズ「品質管理の国際規格」取得研修及びNQS（NTT
の品質管理）適用するための社内教育が本格化。QCサークル活動下火に。

1996年 本庄のNQS不合格。1997年6月から時間外での検査員教育が始まる。
能力給拡大=MBO本格導入 ・9月 OAK機関紙「あすなる」100号

☆ 職場の要求実現の闘いが出来始めた時期

1997年 7月 JIT導入 立ち作業問題で労基署に訴える→立ち入り調査（2001年
6月）を勝ち取るが休憩用の座椅子は設置されるが、立ち作業は残った。
「現代労働負担研究会」に参加。職場分析が1999年労働運動10月号に記載。
6月 株主総会で「社内教育は業務である」の答弁を社長から引き出す。
12月 熊谷労基署に「検査員教育は業務であるので賃金の支払いの指導」を要請・
申告した。1998年2月に立ち入り調査、4月に支払いが行われた。
以後 研修・教育が原則的には業務として行われるようになった。

1998年 3月 TST発足（テクニカル・サポート・チーム）転籍や配転に応じない人の
隔離職場

9月 フェニックス21合理化提案 本体1500人+関連1200人=2700
人削減

篠塚勝正氏が社長就任、・分社化、売却、閉鎖も活発化

1998年 5月 GOTへ本庄の基板部門の転籍 ミニコミ紙、アンケートで「本庄へ戻せ」
の運動。2000年にOAKの会員は本庄へ復帰。

1999年 ・HOPワーク（擬似裁量労働）制度導入 雇用対策職場TST創設される。
転進支援制度導入。米国アトランタ工場閉鎖 アジア・欧州地域重視へ

- 2001年 6月 八王子・三田労基署から「HOPワーク制」の是正勧告、沖電気に指導
粘り強い労基署への訴えが実る。サービス残業問題で労基署に申告。7月、教育
テレビ「人間ゆうゆう」で立ち作業告発
職務グレード制度（成果主義賃金制度）導入
8月 2200人削減合理化提案 早期退職優遇制度導入
- 2002年 2月 JIPテクノ発足（本庄の生産部門の別会社化）
3月 参議院予算委員会で吉川春子さんが沖電気のサービス残業問題と共に本庄工
場のTST（テクニカルサポートチーム）、JIPテクノの実態を告発。
賃金カット6%
6月 HOP勤務者にこれまでの「サービス残業」代金が支払われる。新HOP制に
9月 菅野基視さんに2年分の残業代(2,493,006円)が支払われる。新宿で報告集会。
- 2002年 3月 OAKホームページ開設。
- 2003年 4月 残業不払いが清算される・累計約1億円。
6月 年間8日間の特別休暇問題を株主総会で質す。副社長の「公休取得も可能」
の言質を得るが、実現までには至らず。OEFでサービス残業申告。是正を獲得。
・芝浦地区、小金井地区売却 昇給延期、特別休暇8日
- 2004年 ・退職金などがポイント制度に（成果主義）、共済給付廃止
・高崎で社長へ直訴事件・蕨システムセンターでの初のピラ撒き（420枚）

☆ OAKの一層の活躍が求められる時期到来

- 2005年 4月・1年4ヶ月に及んだ労働組合を通じての会社交渉で不安定雇用2名のOAK
会員外の雇用確保を獲得（60歳までの雇用確保の約束）
・5年ぶり復配 個人情報保護法個人同意書提出
・OAK会員拡大のための規約改正（準会員制導入）、レクレーションの定期化
・6月 機関紙「あすなろ」200号
- 2006年 4月 60歳以上の雇用延長制度導入。会社排除を跳ね除けて北村晴夫さんが延長
しんぶん「赤旗」1面トップで紹介される。以後の闘いの基盤をつくった
・5年ぶりの賃上げ・500円・MGN体制のために職場の再編成（02年に分社
化したOTeCが解散して再編入）
- 2007年 五味田靖子さんの延長獲得に呼応したシンポジウム開催・本庄
・赤字374億円でV字回復合理化（人件費35億円削減、1700人のシフト）
- 2008年 ・沖電気の労組定期大会・傍聴拒否事件 ・派遣社員問題での活動を強める
・半導体事業の分社化・ローム社へ売却（約5、500人）、OKIセミコンダク
タ、事前協議を申し入れて、代理人交渉行うーOAK会員の賃金是正獲得。
・情報通信部門の一部の分社化（約650人、資本金4.9億円）＝OKIネットワー
クス。・「あすなろ240号」（08年8月）・OKIセミコンダクタ多摩臨時社
員解雇事件
- 2009年 ・グループ管理職約280人の希望退職 ・11年続いた篠塚社長が交替（7度の
赤字）・年間・一人平均82万円の賃金ダウン
・OKIセミ多摩和解 ・派遣問題の相談3件。OKIセミコンダクタ連帯する会設
立・八王子の事業縮小問題でシンポジウム開催。
・本庄地区に「なかまの共同センタ」開設して派遣労働者との連帯強化へ
・沖電気の関連子会社（アダチプロテクノ・福島）の日雇い派遣が国会で取り上げ

-
- られる。・沖電気富岡で雇用制限期間を超えていた派遣労働者が直接雇用を勝ち取る。
- 2010年 92年からのリストラの総仕上げとしてグループ1000人の削減、退職金制度の変更、優先株300億円の発行などの施策。
(OKI単体従業員数 92年14,967人 10年3月3,170人)
沖電気の事業再建計画が「産活法」に認定され減税5,250万円。
- 2011年 ・09年8月にOKIネット出向中の投身自殺した35歳の男性が労災認定を受ける
OKIデータ高崎の派遣労働者が違法派遣を群馬労働局に申告。高崎で集会
・電機・情報ユニオン発足。OKIデータ及び派遣元と団体交渉。
- 2012年 ・OKIデータの違法派遣申告が違法派遣と認定される。

赤いゼッケン

沖電気争議団へ
1983.11.13

作詞作曲：梅原司平

Dm Gm A7 Dm

1. ふゆ を — むか えて るに さい むき ぞを らの しか た ほ う
 2. ビラ を — まか て に さい むき ぞを らの しか た ほ あ さ
 3. この こに — は じ な い お や で あ きり いた い かが

5 Gm C7 F

り — だ さ れ た お と こ や お ん な し め
 は — だ し さ く ば に お と り こ や お ん な し め
 し — し み こ え て お つ け た え せ ぎ ッ ケ ン な え ン し い さ べ

9 Gm A7

い — か い こ の あ ら し も の な が だ に ぎ
 に — か か い こ の あ ら し も の な が だ に ぎ
 つ — ゆ へ る す な こ し こ の か え な が せ と きょ う

13 Dm Gm A7 Dm

る — こ ぶ し が ふ る え て な い て い た
 に — な ど み だ が あ と が し は よ っ び か い け た
 も — ど み だ が あ と が し は よ っ び か い け た

17 Bb Dm Gm C7 F/A

あ か く し る し た む ね の ぜ ッ ケ ン
 あ か く し る し た む ね の ぜ ッ ケ ン
 あ か く し る し た む ね の ぜ ッ ケ ン

21 Bb Dm A7 Dm To Coda

こ れ が わ た し の い き て い る あ か し
 こ れ が わ た し の い き て い る あ か し
 こ れ が わ た し の い き て い る あ か し

25 Bb Dm A7 Dm

こ れ が な か ま の た た か い の き ず な

一沖電気不当解雇撤回のうた一

こぶしの防波堤

作詞作曲：中島修一

Dm B \flat Gm A



は た ら く ほ こ り を ふ み に じ る
こ ど も の し あ わ せ ふ み に じ る
さ さ や か な く ら し も ふ み に じ る

5 Gm Dm A7 Dm B \flat A7 Dm



カ イ コ つ う こ く い ち ま い に も え る い か り が わ き あ が る
あ つ い な み だ が あ ふ れ で る
た た か う ゆ う き が わ き あ が る

9 Dm B \flat Gm C7 F Gm A



く び き り で ゆ る す な と シ ュ プ レ ヒ コ ー ル が ひ び き
や め ん で が ん ば れ と く に の 一 た よ り も と ど き
ビ ラ ま く こ の て 一 に な か ま の あ い さ つ こ め て

13 F Am Dm Gm G7 C7



し ょ く ば に も ど る け つ い を か た め て き ず
ま け る も ん か と は げ ま し あ た っ ぎ
し ょ う り を む か え そ の ひ を め ざ し

17 F Am B \flat Gm



こ う つ よ く し ば う ら
あ く び な き み
く び な き り

20 C7 F C7 F



こ ん じ ょ う の
く い と め る
は ね か え す こ ぶ し の ぼう は て い

(3番) D.S.

—沖電気不当解雇撤回のうた—

決意はかたく

作詞作曲：高屋 修

た だう いちま いれ のた かみ きれん
はゆめ ー れみ たた せし あー もわ せ

4 A7 Gm Dm A7
でが しよ く ば とせ い か つれ を う ば い さ
が きよ ま ー は とむ お ー ん に く や だ しか され

8 Dm C F Dm Bb
るに ふ と う か い こ を ゆ る さ ぬ

12 C Gm Bb A7
と こさ こ ろに ち か と っ た そ の ひ か
こ け こ ぶに ちこ か ー ぱ に こた えて くを ー
まに ろに ちか ー たい そた ラ を ー
まに ろに ちか ー たい そた ラ を ー

16 A Dm Gm Dm
らるく あ つ ー い な か ま の わ の な か
く しよ く ー ば の な か ど ま れ の は そ の な ま かし
ま

20 A7 Dm Gm A7 Dm
では と も に た た か る う け つ い は か た く き の
で た た か ら ず た た ど く ぞ と と い は か た く き の



2000年3月6日 逝去した元沖電気争議団の松本和子さんを偲んで熊谷の荒川堤に、夫の松本謙司さんの友人らが桜(普賢象・八重)を植えた。毎年季節になると見事な花を咲かせる。

沖電気争議解決25周年記念誌

編集委員会

中山森夫

中屋重勝

長井 明

北村晴夫

柳沼俊男

金子輝人

2012年4月22日